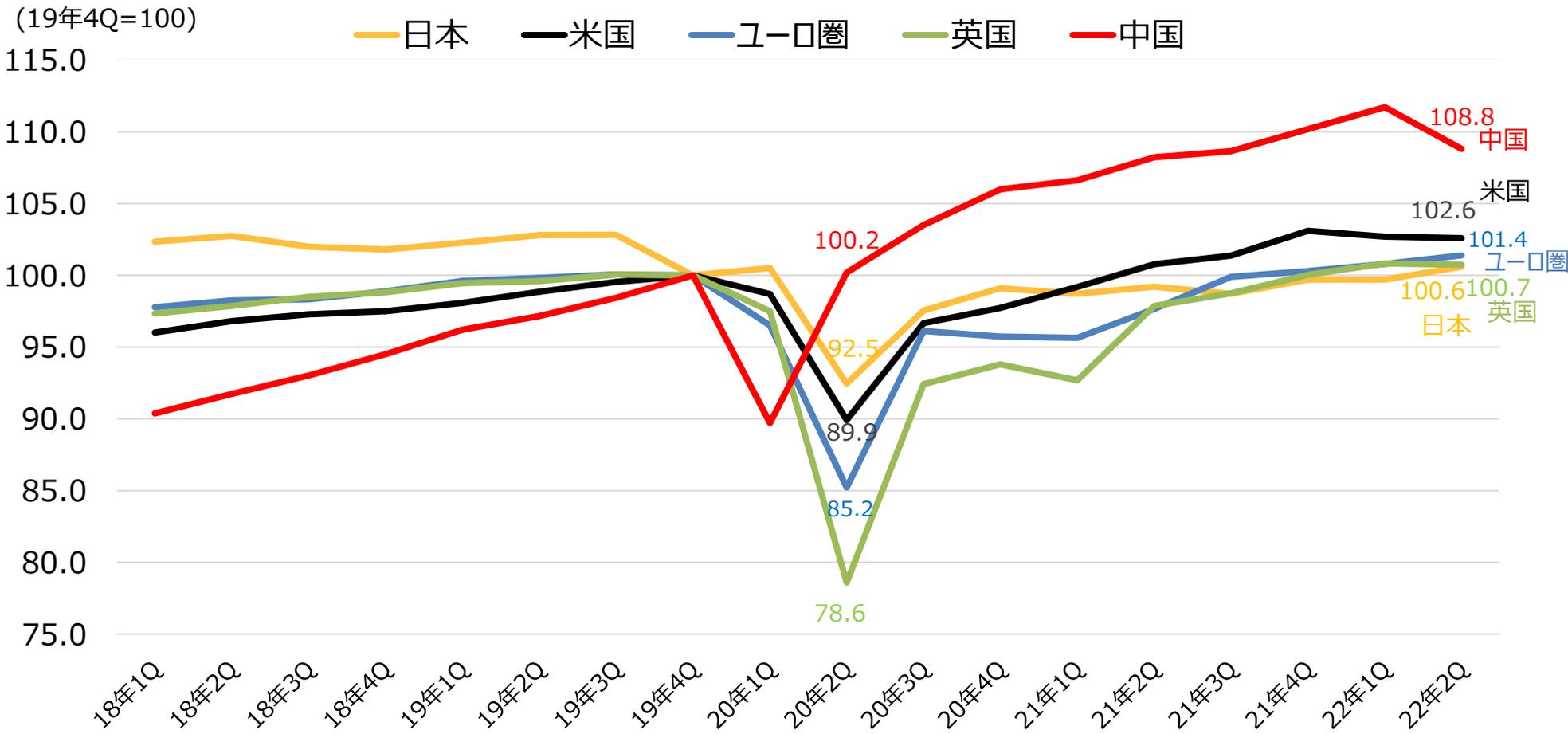


# 内外経済動向

2022年10月

# 2019年末以降の世界各国・地域の経済活動水準 (四半期実質GDP) の推移

- 2021年10-12月期は各国ともプラス成長も、22年4-6月期は米国、英国、中国がマイナス成長に。
- 最新のデータでは、各国ともコロナ前の水準を取り戻した。
- 日本の22年4-6月期の実質GDP成長率は、+0.9%と三四半期連続のプラス成長となった。(2次速報)
- 日本はコロナ前の水準をほぼ取り戻したが、諸外国と比較して回復ペースは遅い。



(資料) Bloomberg、内閣府「国民経済計算」2022年9月15日公表 2022年4-6月期 (2次速報)

# OECD 世界経済中間見通し（2022年9月）

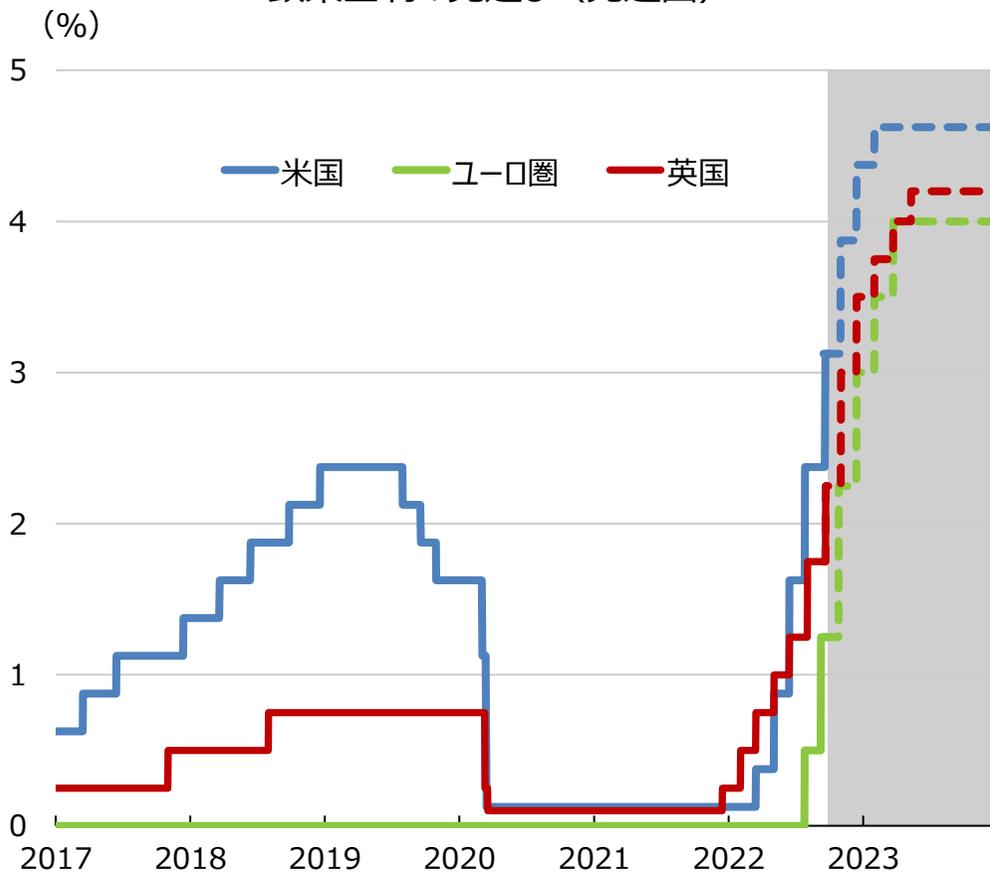
- 世界の実質GDP成長率は、**2022年は+3.0%**と横ばい、**2023年は+2.2%**と▲0.6%ptの下方修正。
- ロシアによるウクライナ侵攻と新型コロナウイルスの継続的な影響により、成長が鈍化し、特にエネルギーと食料の価格を大幅に押し上げるなどインフレ圧力を悪化させ、世界経済が打撃を受けた。

	2020年	2021年	2022年見通し		2023年見通し		備考
			22年6月	22年9月	22年6月	22年9月	
世界	▲3.4%	5.8%	3.0%	→ 3.0%	2.8%	↓ 2.2%	2022年、2023年ともに、ほとんどのG20経済圏で減速すると予測。
日本	▲4.6%	1.7%	1.7%	↓ 1.6%	1.8%	↓ 1.4%	現在、欧州や米国よりも強い成長モメンタムを持っているが、外需の軟化もあり、今後数四半期でその勢いは弱まると予想。
米国	▲3.4%	5.7%	2.5%	↓ 1.5%	1.2%	↓ 0.5%	2022年後半から2023年にかけて、年率換算で潜在成長率を大きく下回る1.5%程度になると予想。
ユーロ圏	▲6.5%	5.3%	2.6%	↑ 3.1%	1.6%	↓ 0.3%	実質所得の減少やエネルギー市場の混乱などにより、短期的に生産が減少する可能性がある。
ドイツ	▲4.9%	2.9%	1.9%	↓ 1.2%	1.7%	↓ ▲0.7%	実質所得の減少やエネルギー市場の混乱が足を引っ張り、短期的に生産が減少する可能性がある。
英国	▲9.8%	7.4%	3.6%	↓ 3.4%	0.0%	→ 0.0%	実質所得の減少やエネルギー市場の混乱が足を引っ張り、短期的に生産が減少する可能性がある。
中国	2.3%	8.1%	4.4%	↓ 3.2%	4.9%	↓ 4.7%	ゼロコロナ政策による都市閉鎖と不動産市場の低迷を背景に、22年は低下すると予測。23年には政策支援により回復する可能性がある。
ロシア	▲2.5%	4.7%	▲10.0%	↑ ▲5.5%	▲4.1%	↓ ▲4.5%	欧米のロシア産原油輸出に対する制裁措置の影響も、予想以上に破壊的となる可能性がある。

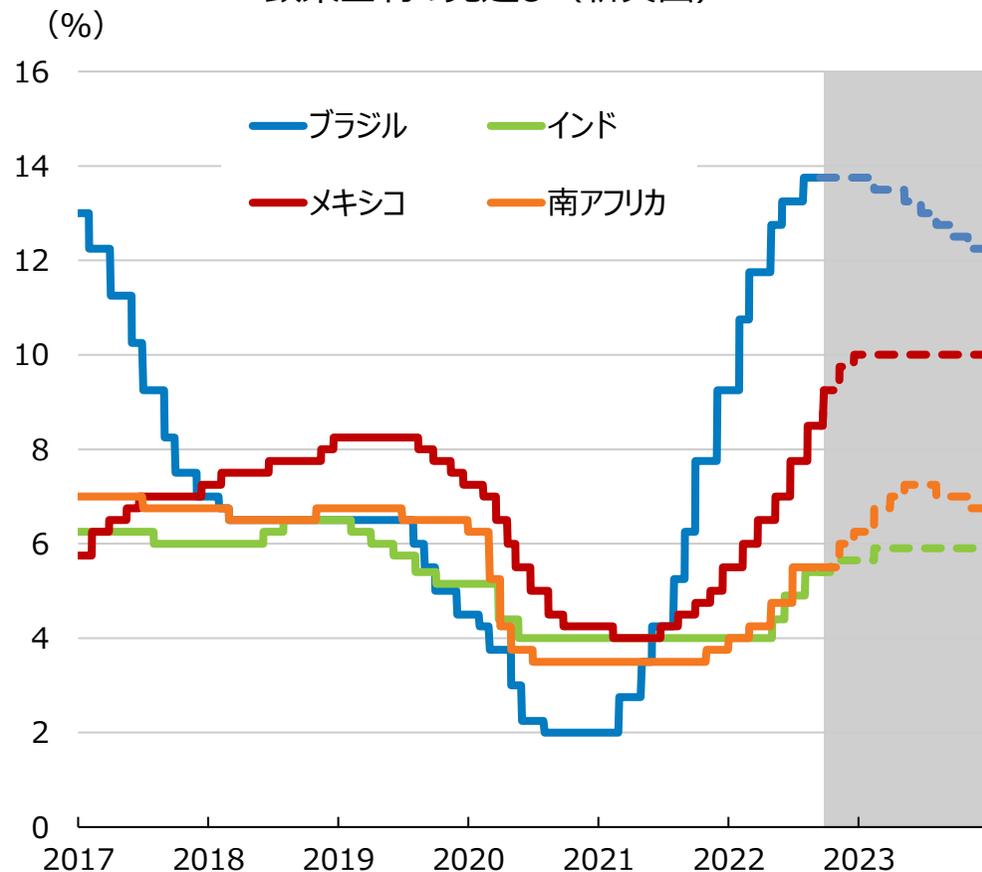
# 政策金利の見通し

- ほとんどの先進国では、インフレを持続的に低下させるため、金融政策の引き締めを継続する必要がある。
- 世界的な金融環境の悪化とインフレ圧力の持続は、多くの主要新興国においてさらなる金融引き締めを必要とする。

## 政策金利の見通し（先進国）



## 政策金利の見通し（新興国）



**日本經濟**

美国經濟

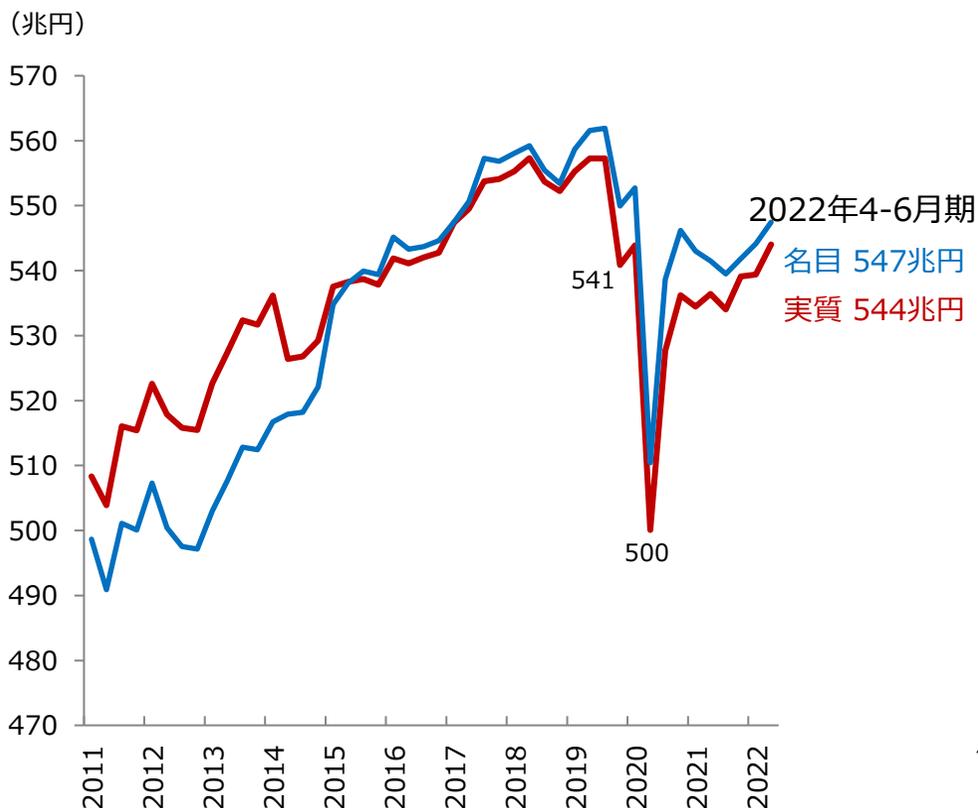
中国經濟

欧州經濟

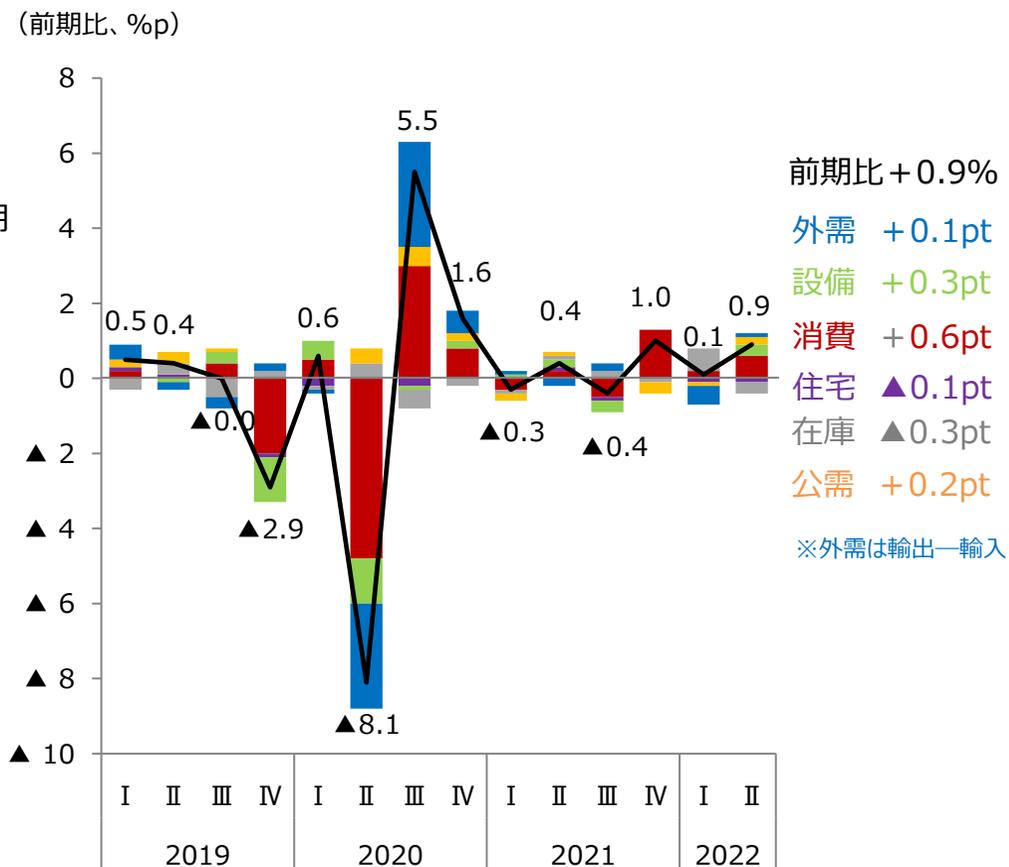
# GDP

- 2022年4-6月期実質GDP成長率は、民間消費や設備投資等の増加から、前期比+0.9%（年率+3.5%）と1次速報（前期比+0.5%、年率+2.2%）から上方改定し、3四半期連続のプラス成長。
- 実質で544兆円、名目で547兆円。（1次速報では、実質で542兆円、名目で545兆円。）

## GDPの推移



## 実質GDPの変動要因

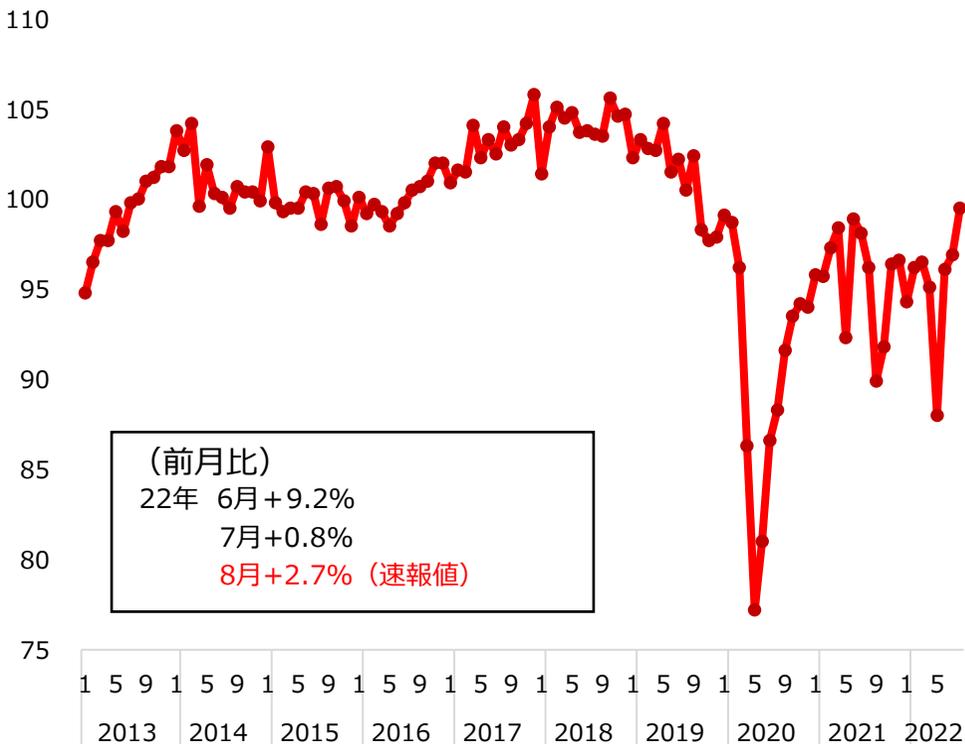


# 生産

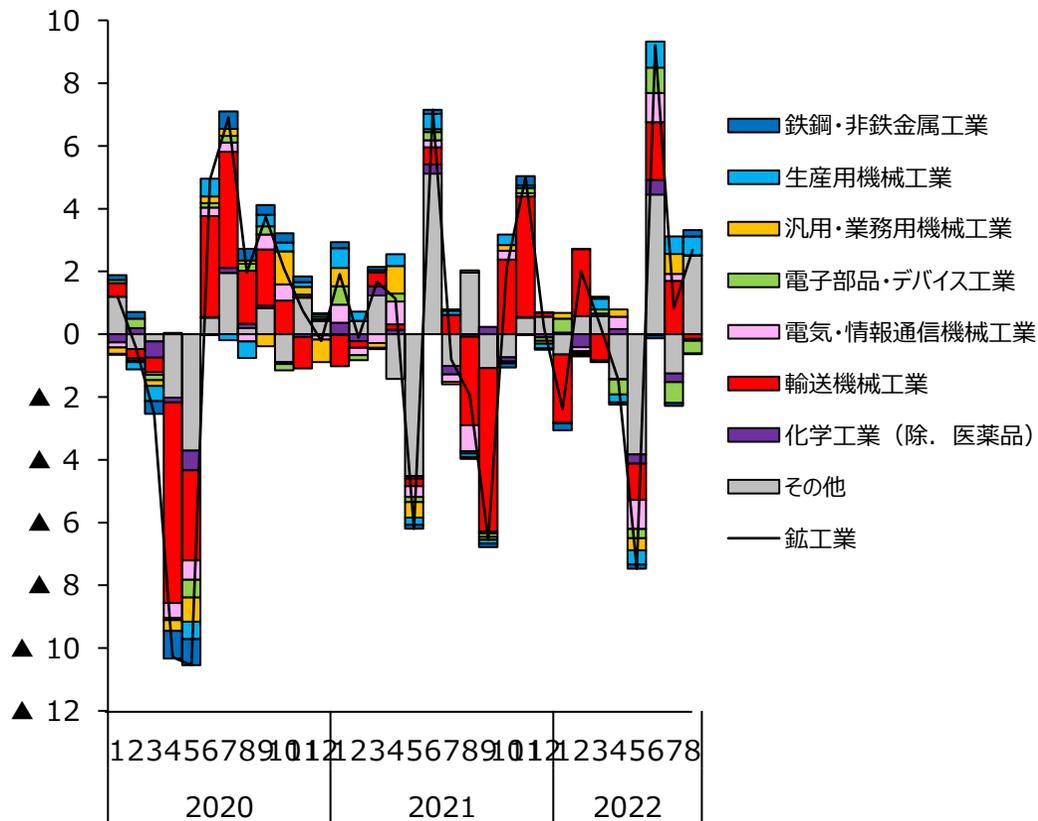
- 7月に続いて、部材供給不足の影響が緩和し、8月の生産は前月比+2.7%の上昇。生産用機械工業等、幅広い業種が上昇した一方、電子部品・デバイス工業等は低下した。
- 8月の生産の基調判断は、「緩やかな持ち直しの動き」（前月から上方修正）。

## 鉱工業指数の推移

(2015年 = 100、  
季調済)

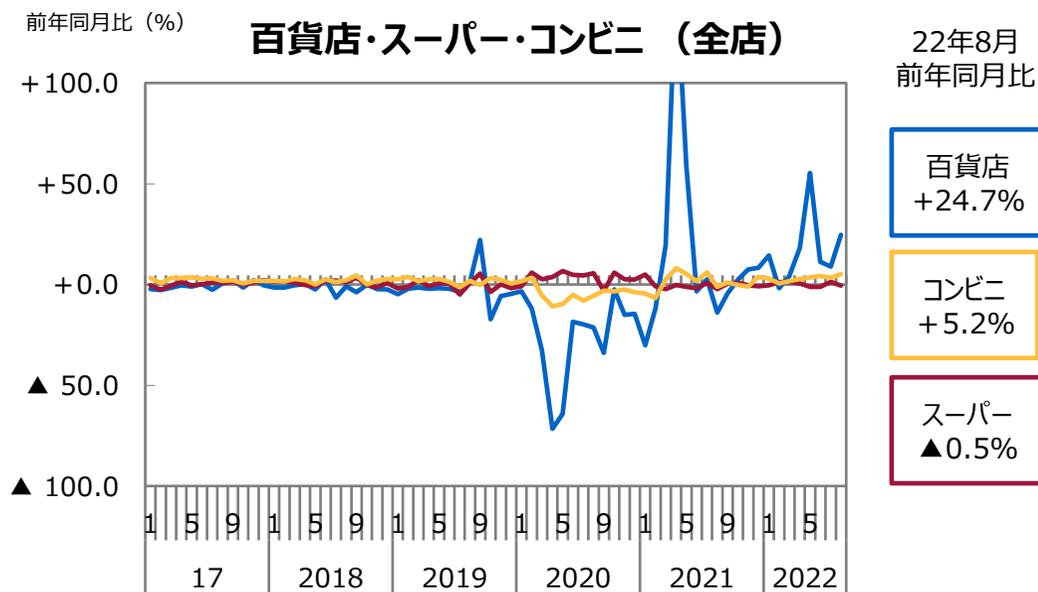
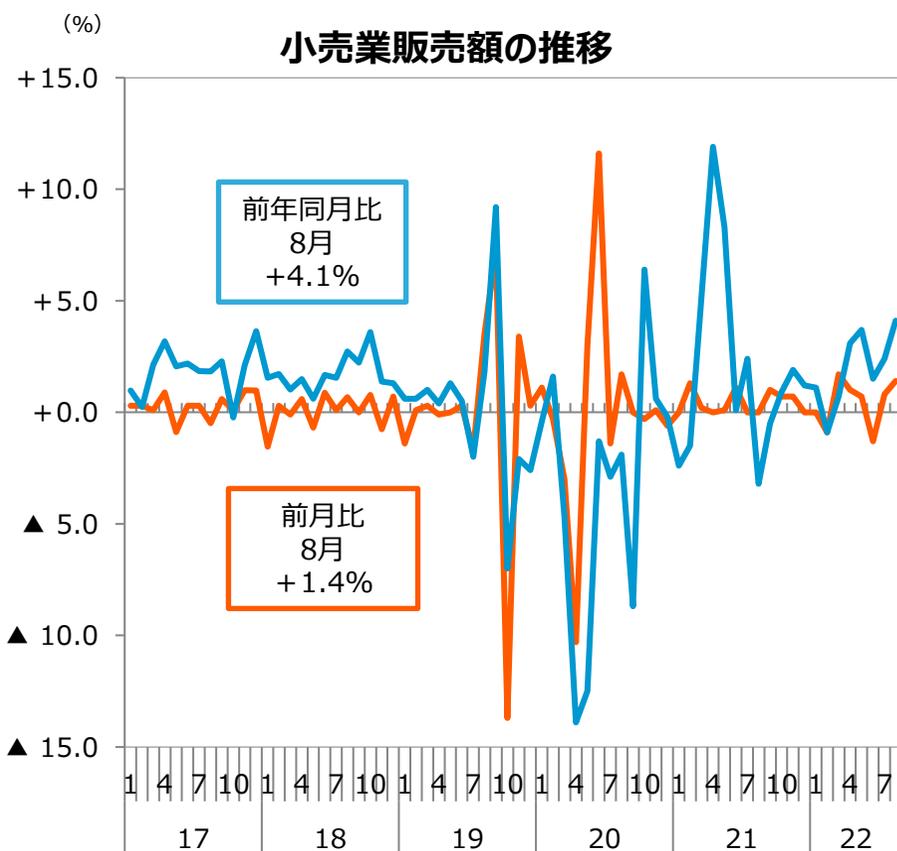


## 変動要因 (業種別)



# 消費①

- 8月の小売業販売額は、12兆5210億円と前年同月比+4.1%（6か月連続の増加）。前月比（季節調整値）+1.4%（2か月連続の増加）。
- 前年同月比が増加となった主な業種は、燃料小売業（+10.8%）など。



小売業（内訳）の増減率(2022年8月速報)

単位：(%)

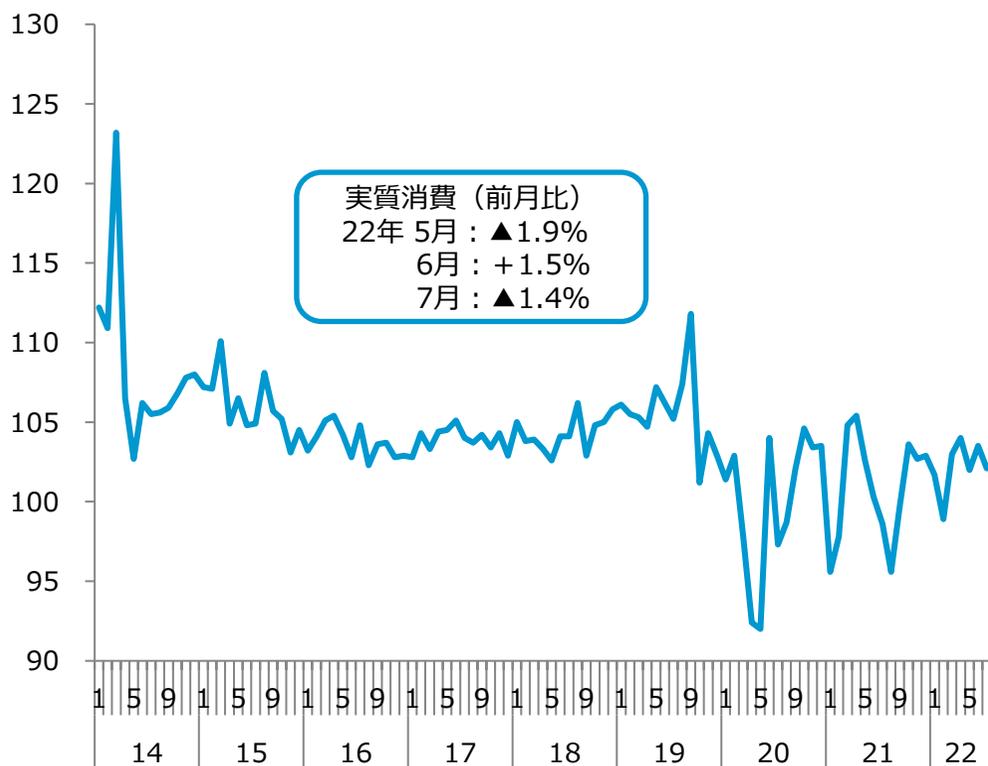
	小売業	各種商品小売業	織物・衣服・身の回り品小売業	飲食料品小売業	自動車小売業	機械器具小売業	燃料小売業	医薬品・化粧品小売業	その他小売業
前年同月比	4.1	10.1	6.2	0.0	▲ 6.3	▲ 6.5	10.8	13.6	12.0
前月比	1.4	▲ 2.2	▲ 4.4	▲ 1.4	▲ 6.1	▲ 2.3	0.2	1.1	※

※季節調整済指数前月比は、「医薬品・化粧品小売業を含むその他小売業」を採用。

## 消費②

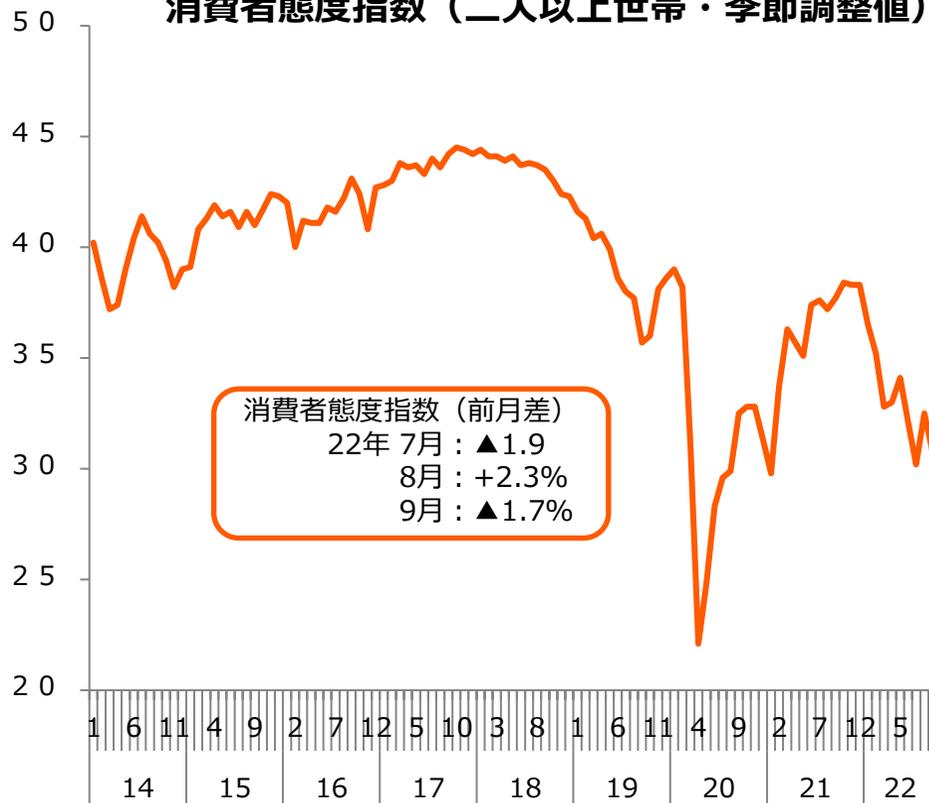
- 7月の実質消費支出は前年同月比▲3.4%と2か月連続の増加。前月比は▲1.4%と2か月ぶりの減少。
- 消費者マインドは、低下傾向。

(2020年=100) 実質消費支出 (二人以上世帯・季節調整値)



(ポイント)

消費者態度指数 (二人以上世帯・季節調整値)



## 消費③

- 9月の新車販売台数は23.4万台。前年同月比は26.4%と14か月ぶりのプラス。
- 8月の外食売上高は前年同月比+18.0%のプラス。

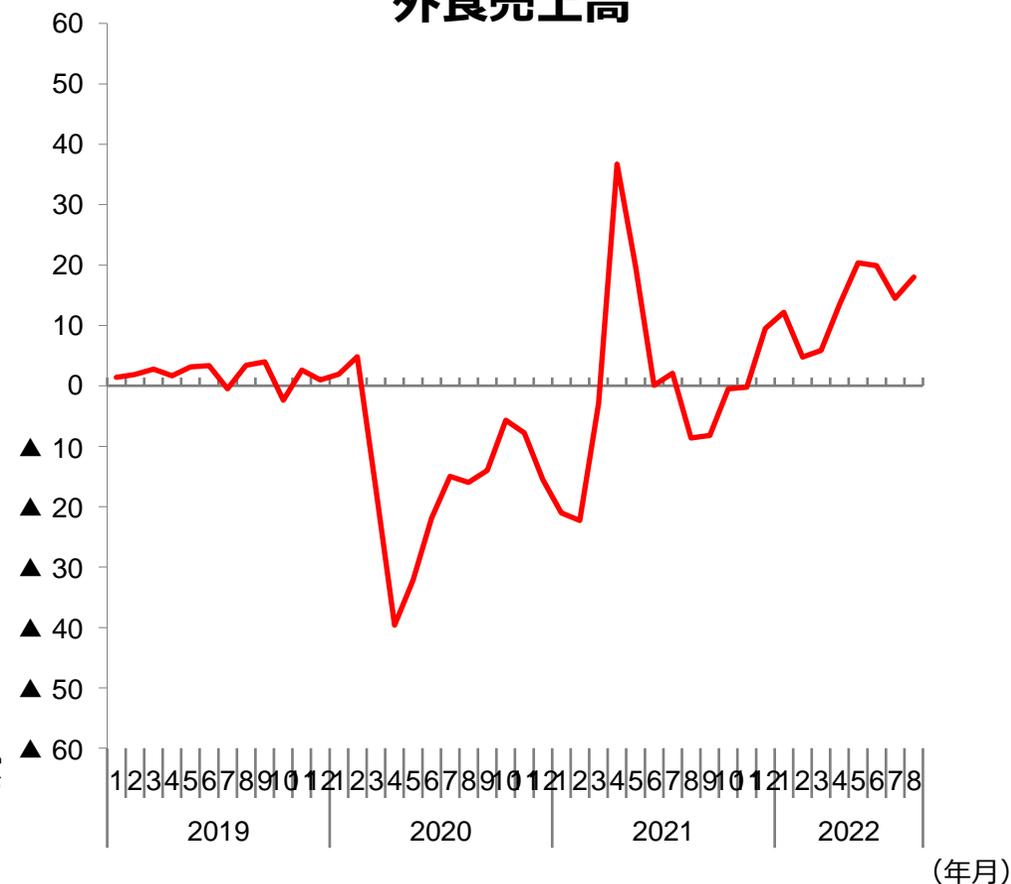
前年同月比 (%)

### 新車販売台数 (乗用車計)



前年同月比 (%)

### 外食売上高



(資料) 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会 2022年9月1日公表  
日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」2022年9月26日公表

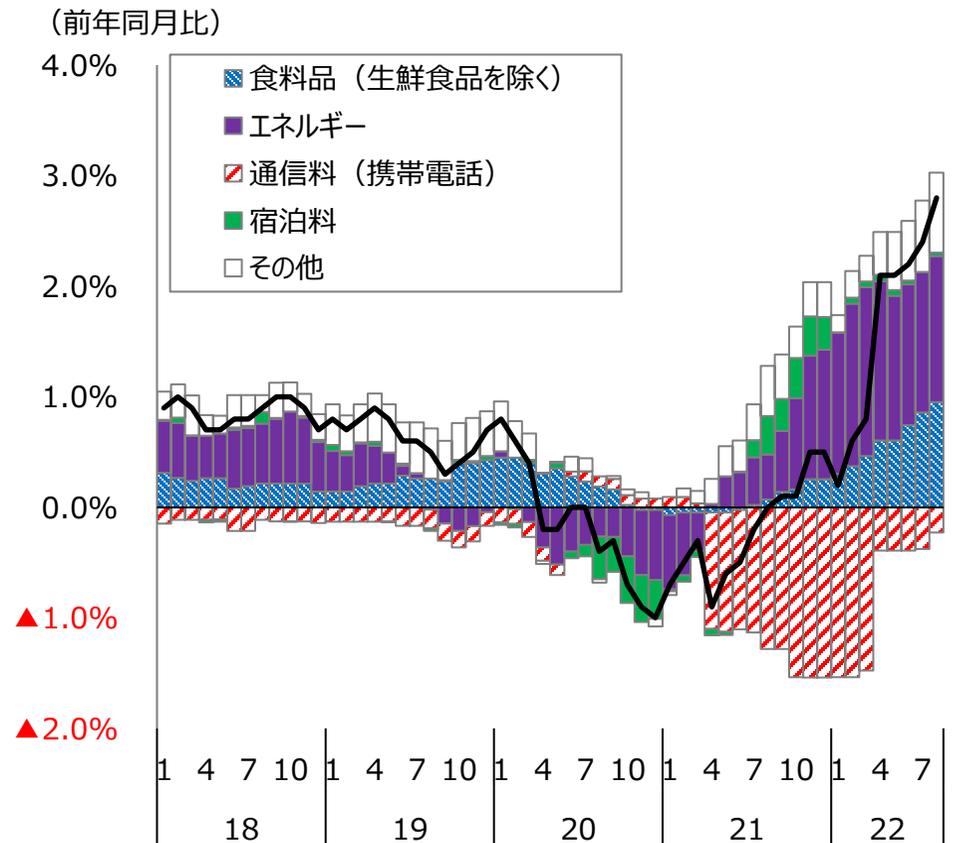
# 物価①

- 2022年8月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合）は、前年同月比+2.8%（7月：同+2.4%）と12か月連続のプラスとなった。

## 消費者物価指数の推移

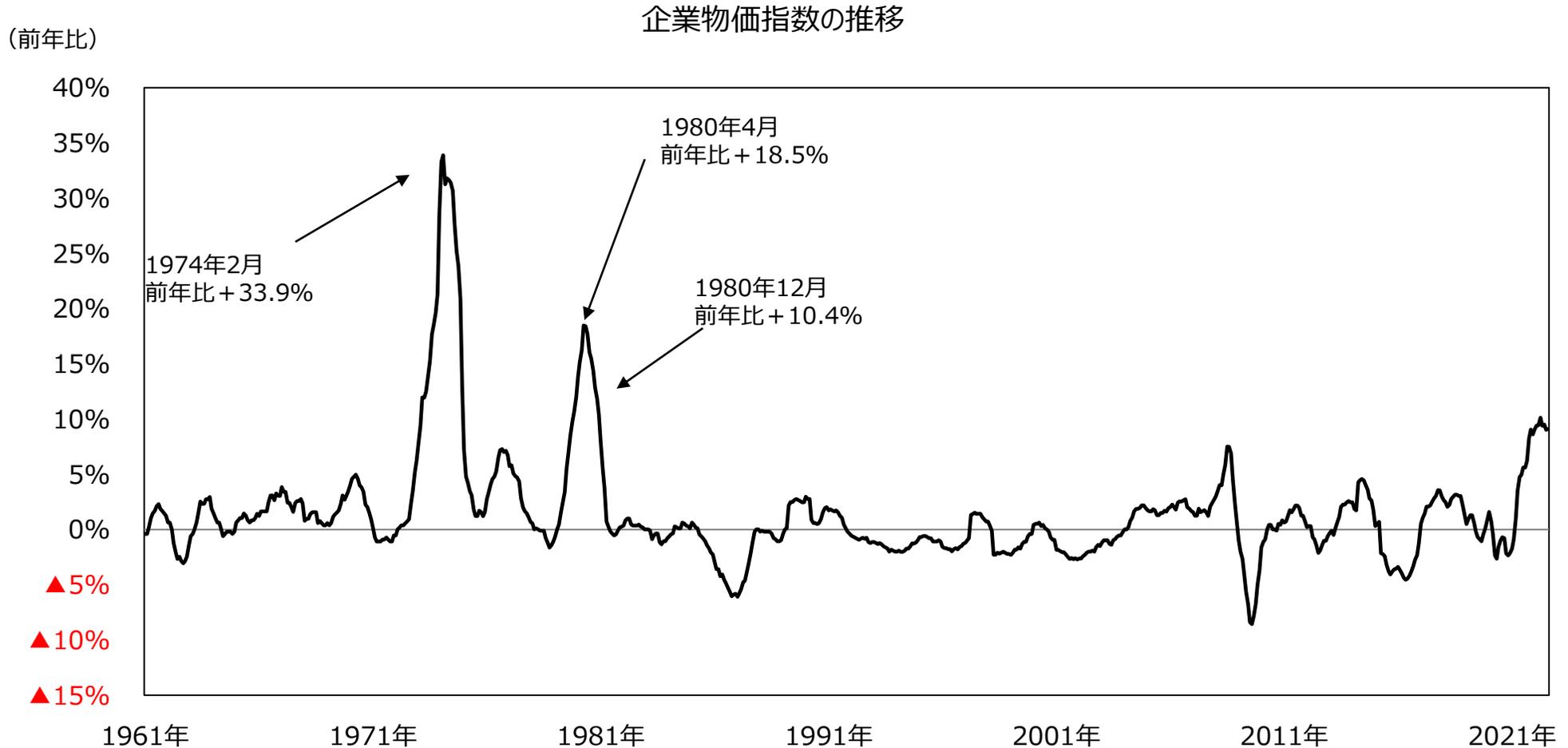


## 生鮮食品を除く総合指数の推移



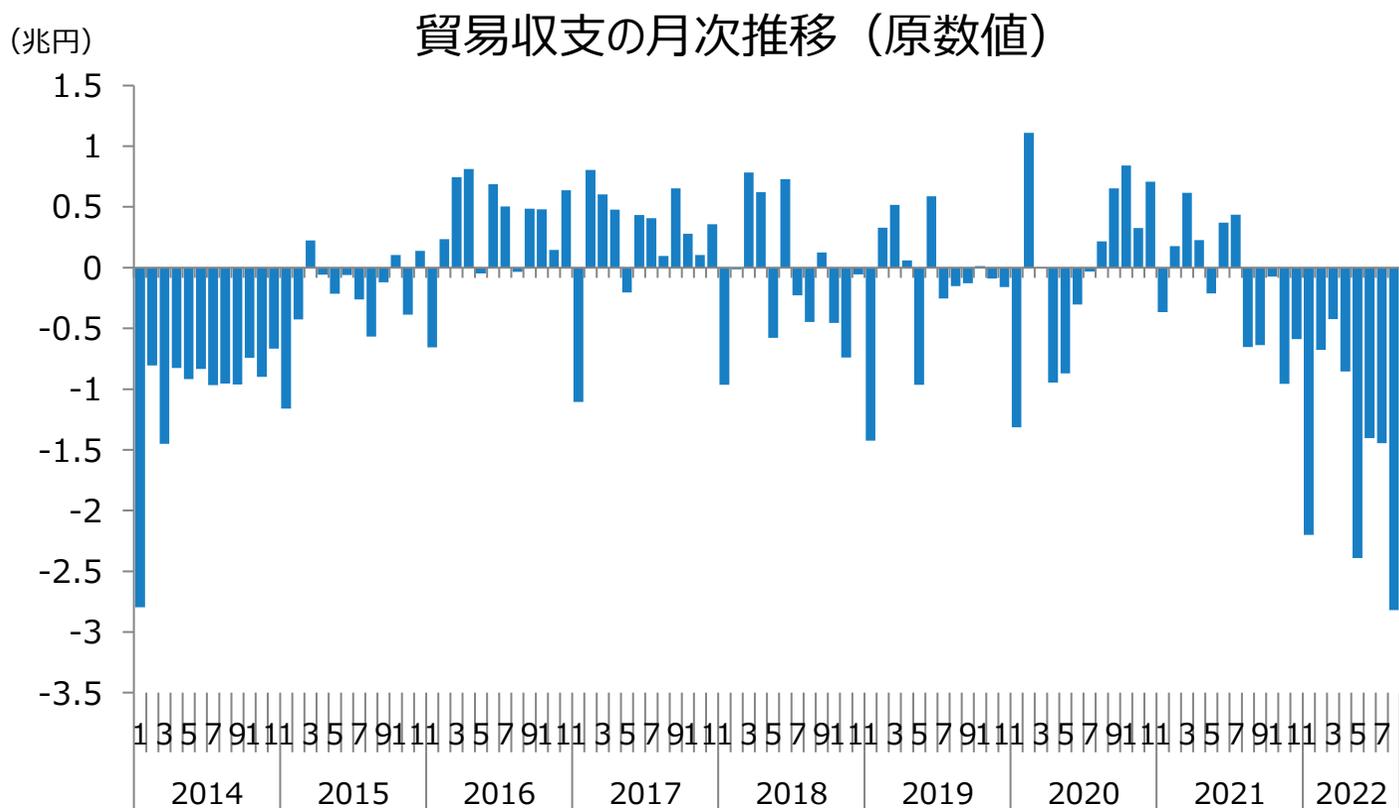
## 物価②

- 2022年8月の企業物価指数は前年同月比+9.1%（7月：同+9.0%）と、18か月連続のプラス。



# 貿易

- 2022年8月の貿易収支は、▲2兆8200億円と13か月連続の赤字。比較可能な1979年以降で過去最大の赤字幅。
- 輸出金額は8兆600億円(前年同月比+22.0%)、輸入金額は10兆8800億円(同+49.9%)。



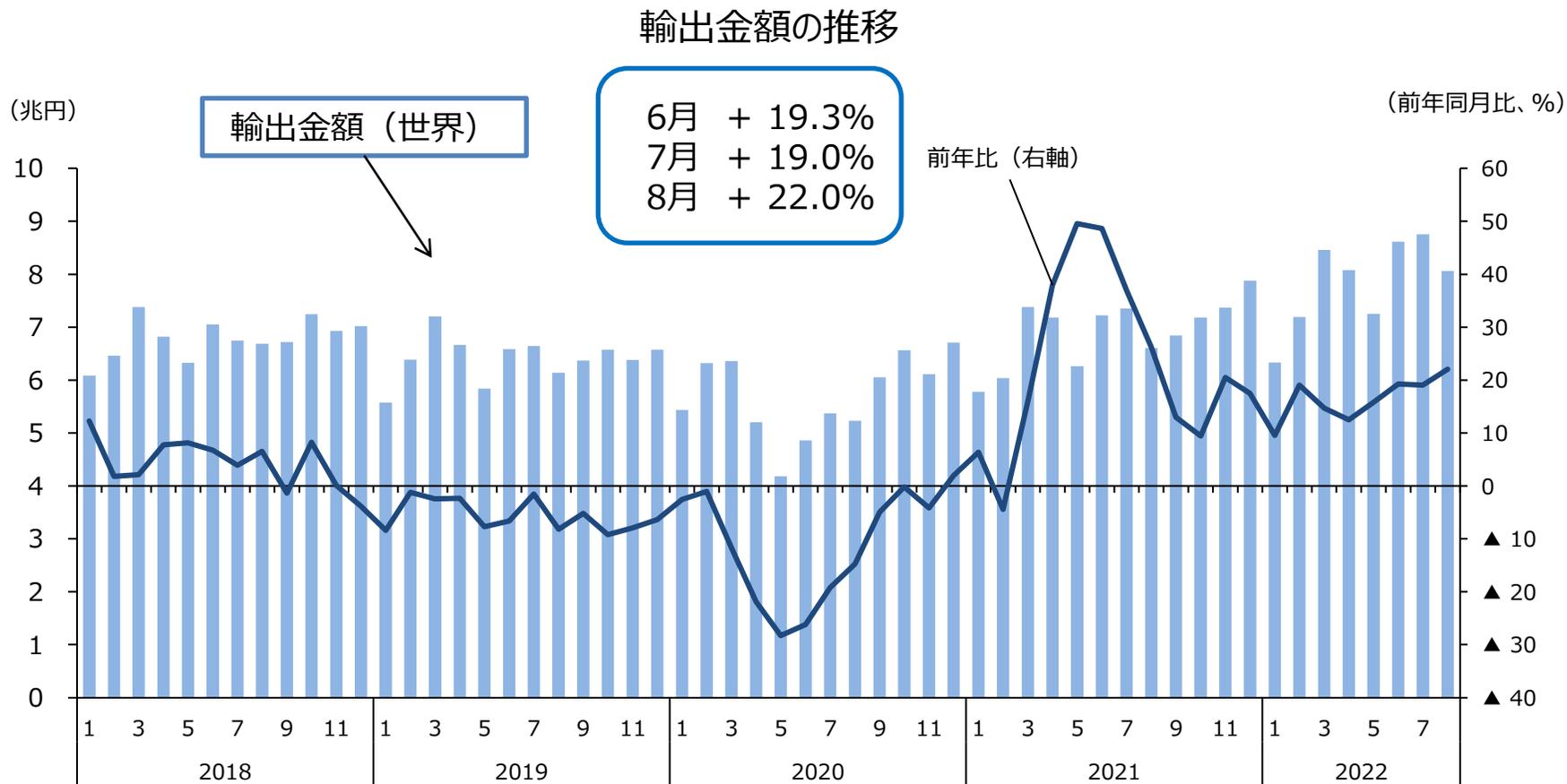
貿易統計動向主要品目  
(対前年同月比)

- ・輸出金額  
自動車、鉱物性燃料、半導体等製造装置などが増加
- ・輸入金額  
原粗油、石炭、液化天然ガスなどが増加

(資料) 財務省「貿易統計」2022年9月29日公表 2022年8月分 (確報)

# 輸出

- 2022年8月の輸出金額は前年同月比+22.0%と18か月連続の増加。

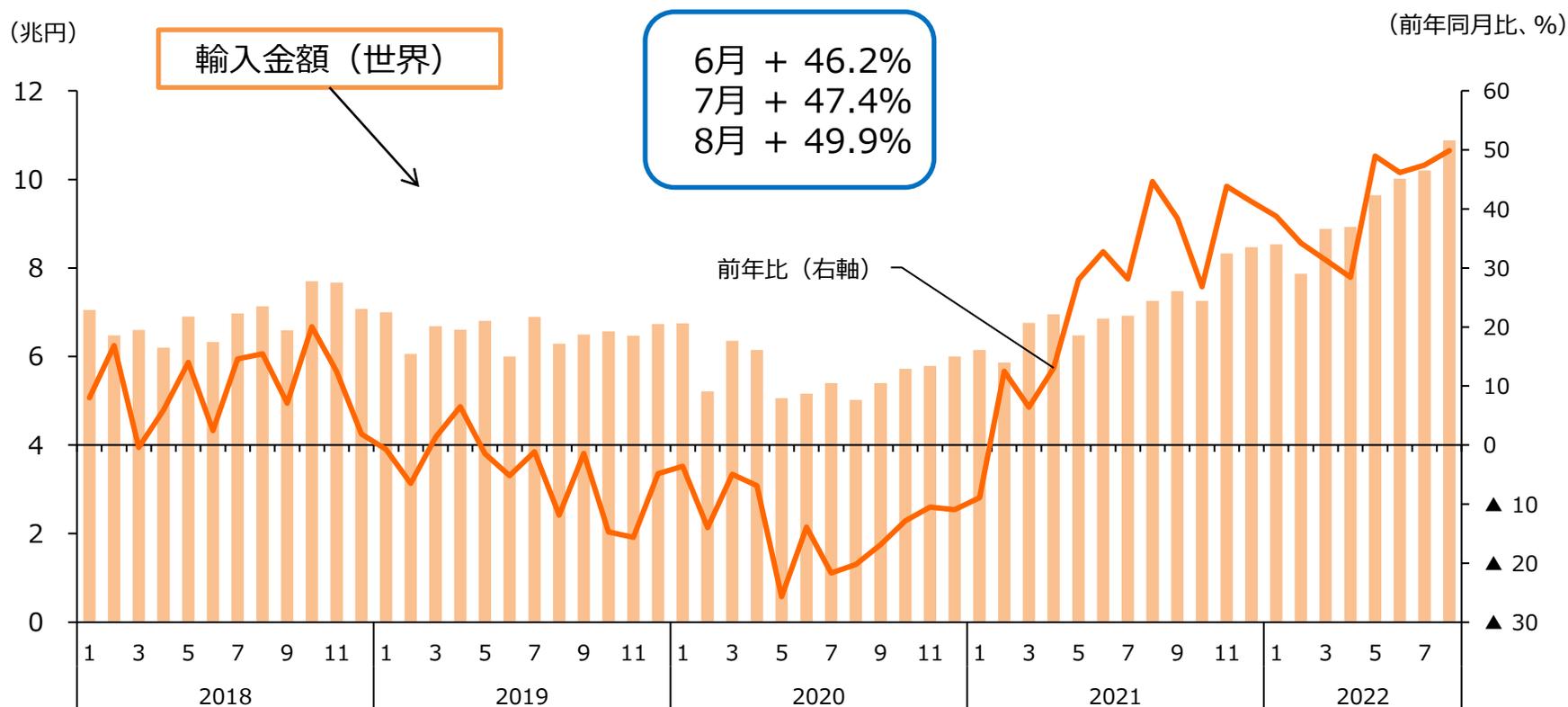


(資料) 財務省「貿易統計」2022年9月29日公表 2022年8月分 (確報)

# 輸入

- 2022年8月の輸入金額は前年同月比+49.9%と19か月連続の増加。

## 輸入金額の推移

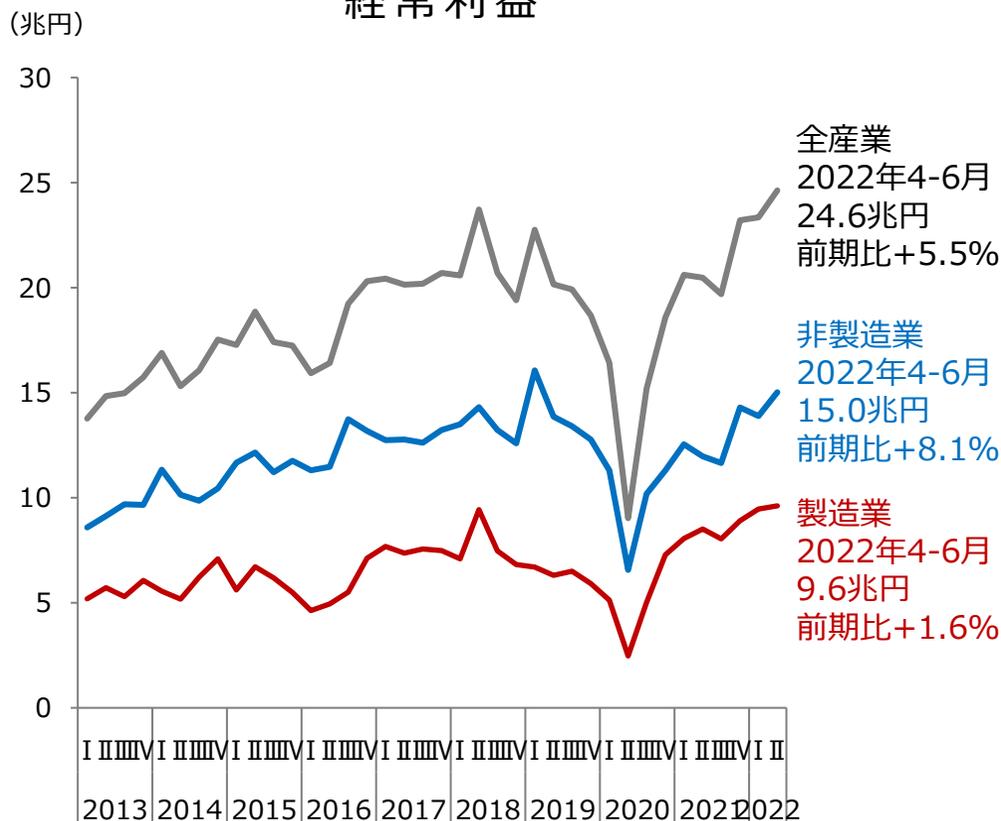


(資料) 財務省「貿易統計」2022年9月29日公表 2022年8月分 (確報)

# 企業収益 業況判断

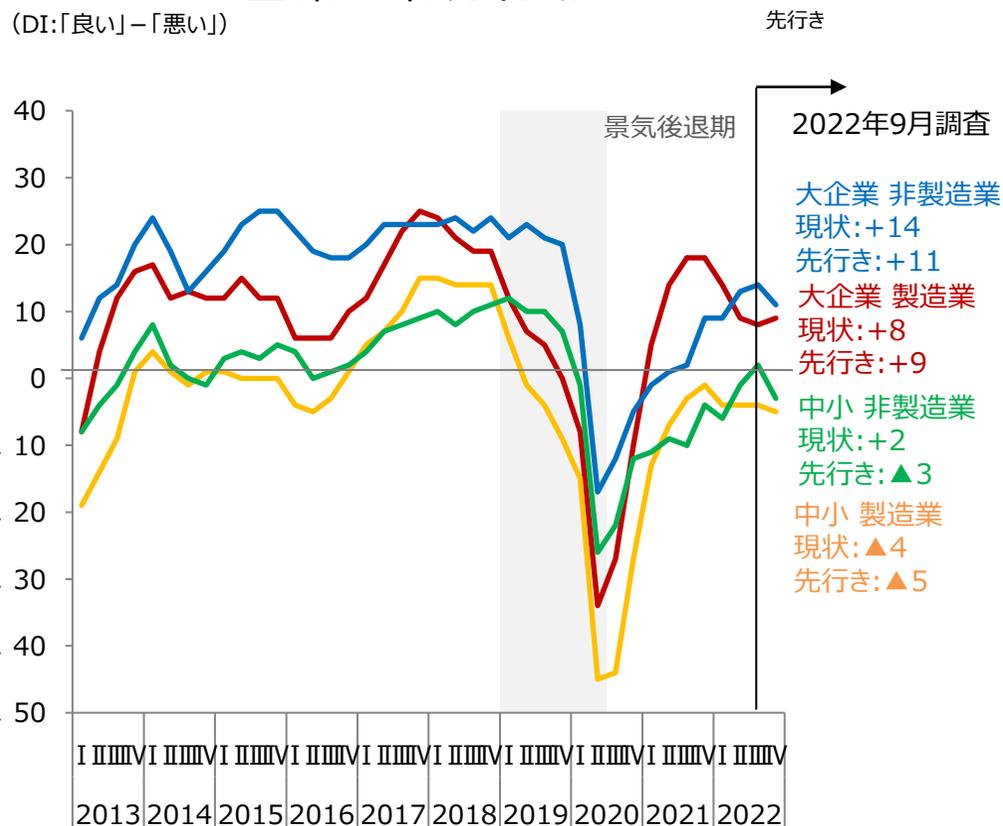
- 2022年4-6月期の経常利益は、製造業で前期比+1.6%と3四半期連続の増益。非製造業も前期比+8.1%と2四半期ぶりの増益。
- 業況の先行きは、大企業製造業で改善が見込まれる一方、非製造業は大企業・中小企業ともに悪化が見込まれる。

## 経常利益



(資料) 財務省「法人企業統計季報」9月1日公表  
(注) 季節調整済系列  
金融業、保険業を除く。

## 企業の業況判断DI

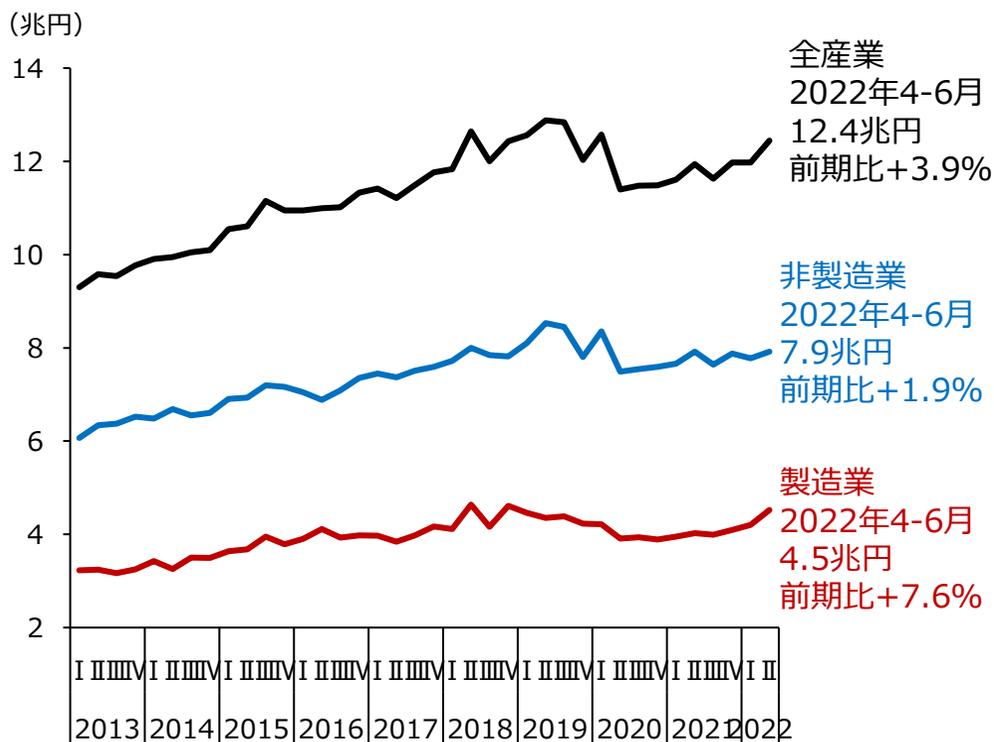


(資料) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」10月3日公表

# 設備投資

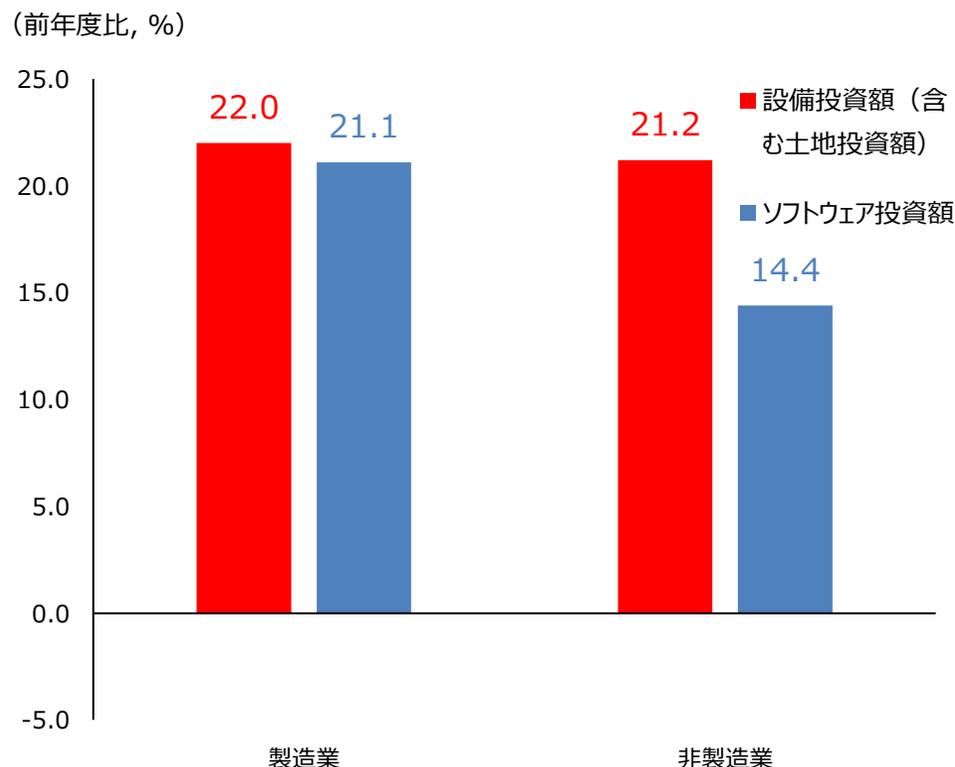
- 2022年4-6月期の設備投資は、製造業で前期比+7.6%、非製造業も同+1.9%と、両業種とも増加。
- 2022年度の大企業の設備投資計画は製造業で前年度比+22.0%、非製造業で同+21.2%と、前回調査（製造業：同21.5%、非製造業：同16.8%）から上方修正となった。

## 設備投資



(資料) 財務省「法人企業統計季報」9月1日公表  
(注) 季節調整済系列  
金融業、保険業を除く。ソフトウェアを含む。

## 設備投資計画（大企業）



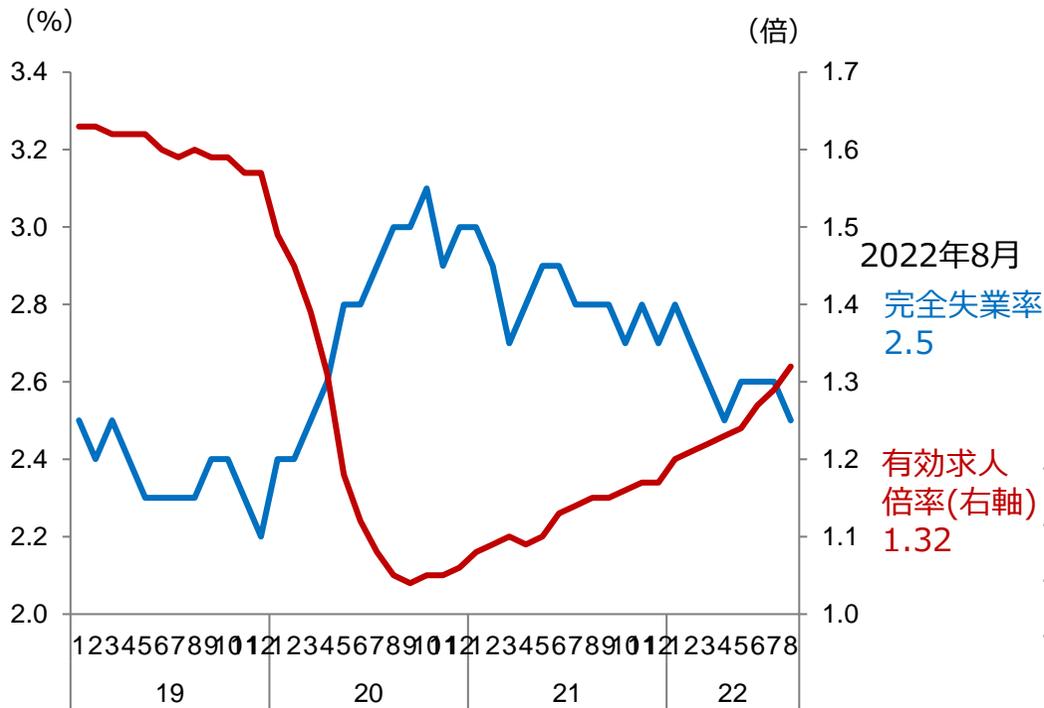
(資料) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」10月3日公表  
(注) 大企業は、資本金10億円以上。



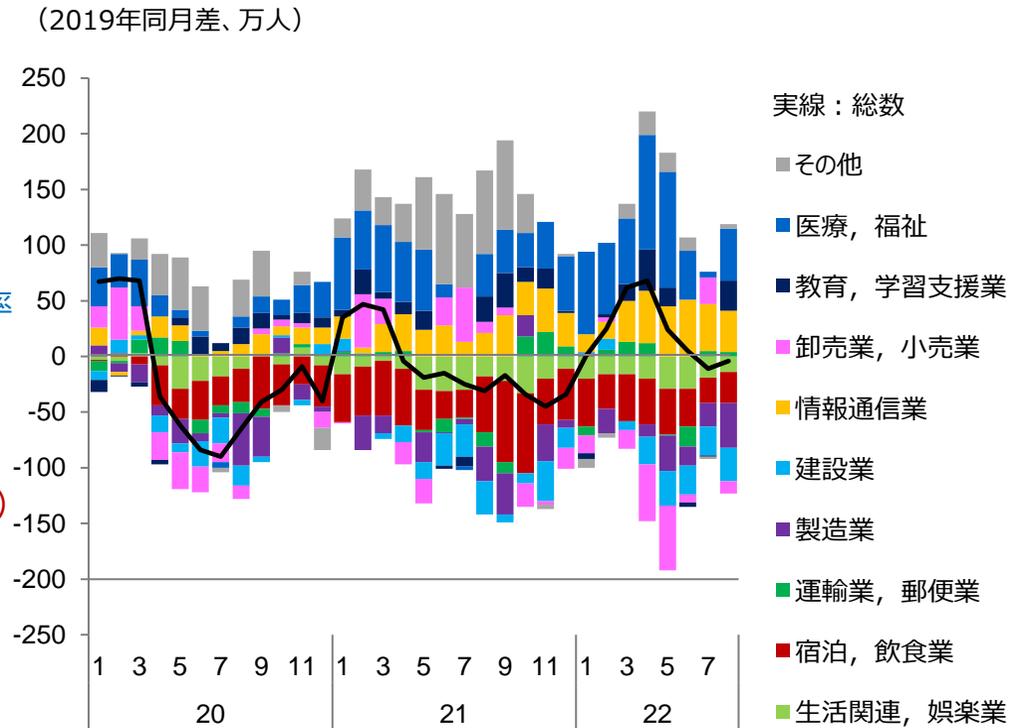
# 雇用

- 8月の完全失業率は2.5%と前月から0.1%低下。有効求人倍率は1.32倍と前月から上昇。
- 8月の雇用者数は、2019年同月差で▲4万人。産業別では、宿泊、飲食業が減少傾向。

## 失業率・有効求人倍率



## 雇用者数の増減 (産業別)



(資料) 総務省「労働力調査」2022年9月30日公表、厚生労働省「一般職業紹介状況」2022年9月30日公表

日本經濟

**美国經濟**

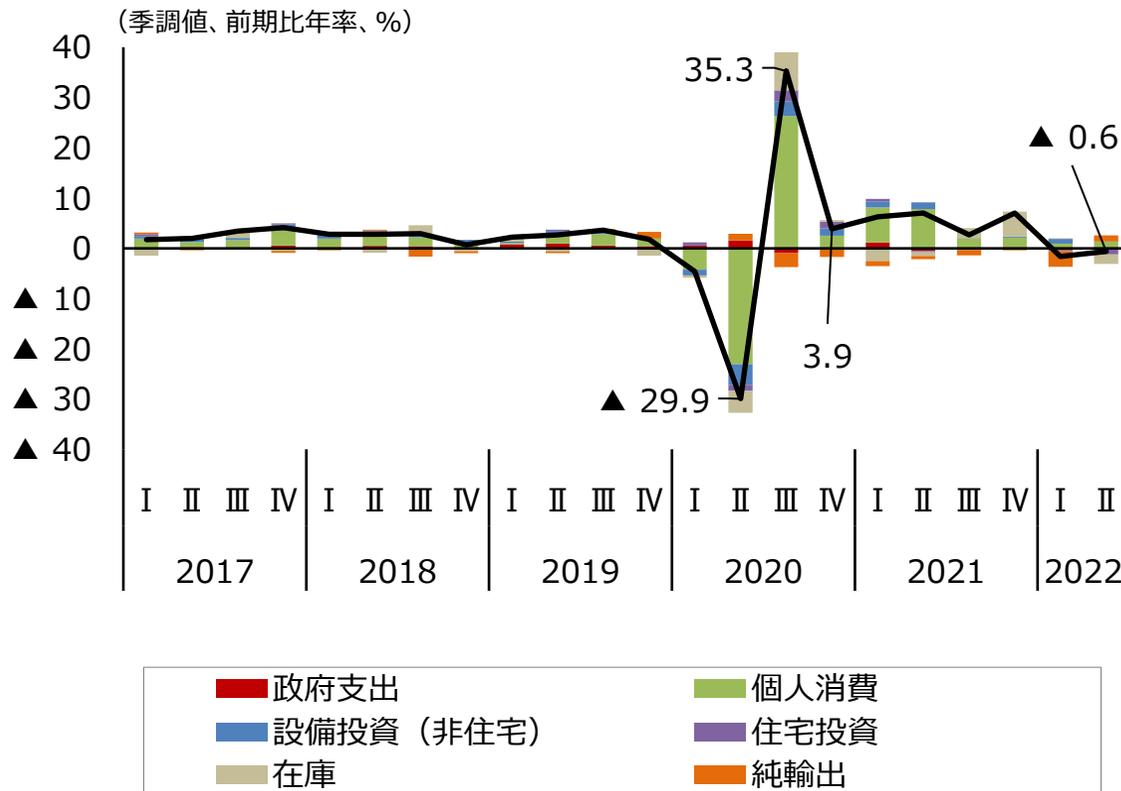
中国經濟

欧州經濟

# 米国 GDP

- 2022年4-6月期実質GDP成長率（三次推計）は前期比年率▲0.6%と4-6月期に続き、2四半期連続のマイナス成長となった。個人消費がプラスを維持したものの、住宅投資や在庫投資などの内需がマイナスに寄与した。

## 米国実質GDP寄与度（需要項目別）



(資料) 米商務省「GDP統計（改定値）」2022年9月29日公表

## 需要項目別・成長率

(前期比年率)

	1-3月期	4-6月期 三次推計	増減
実質GDP	▲ 1.6	▲ 0.6	1.0
個人消費	1.3	2.0	0.7
設備投資	7.9	0.1	▲ 7.8
住宅投資	▲ 3.1	▲ 17.8	▲ 14.7
輸出	▲ 4.6	13.8	18.4
輸入	18.4	2.2	▲ 16.2
政府支出	▲ 2.3	▲ 1.6	0.7

(資料) 米商務省

## 需要項目別・寄与度

(前期比年率)

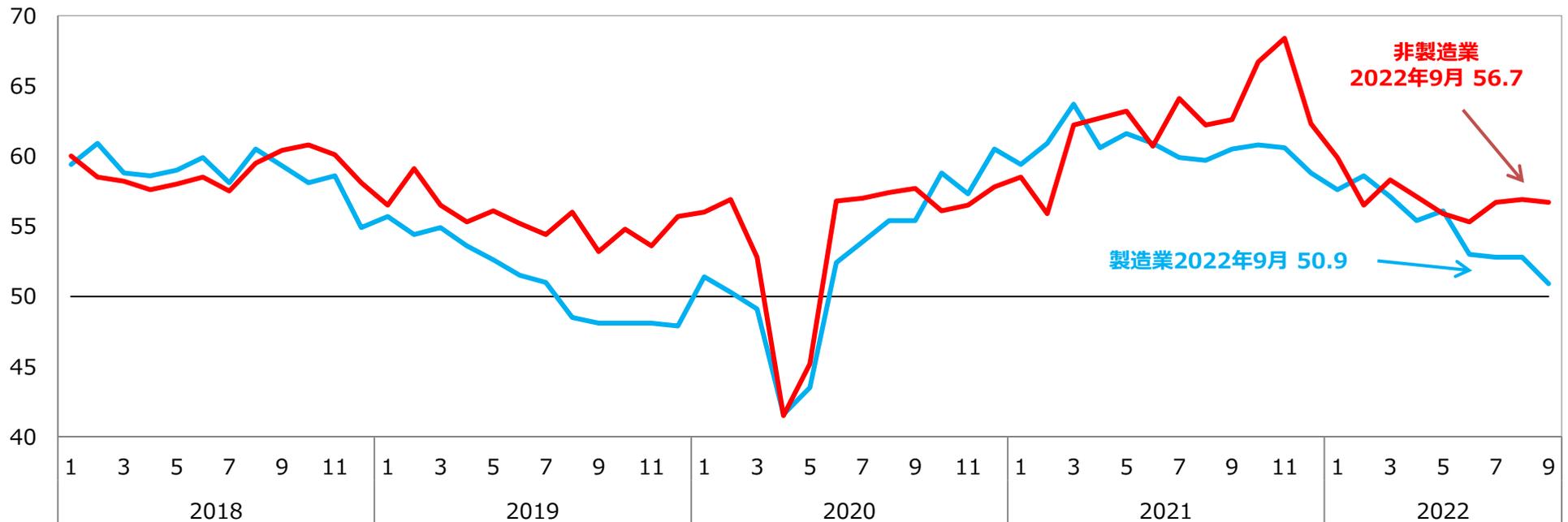
	1-3月期	4-6月期 三次推計	増減
実質GDP	▲ 1.6	▲ 0.6	1.0
個人消費	0.9	1.4	0.5
設備投資	1.0	0.0	▲ 1.0
住宅投資	▲ 0.2	▲ 0.9	▲ 0.8
在庫投資	0.2	▲ 1.9	▲ 2.1
輸出	▲ 0.5	1.5	2.0
輸入	▲ 2.6	▲ 0.4	2.3
政府支出	▲ 0.4	▲ 0.3	0.1

(資料) 米商務省

# 米国 ISM製造業・非製造業景気指数

- 9月ISM製造業景気指数（総合）は50.9と、8月（52.8）から低下し、市場予想（52.0）を下回った。
- 9月ISM非製造業景気指数（総合）は56.7と、7月（56.9）から小幅低下したが、市場予想（56.0）を上回った。

ISM製造業・非製造業景気指数



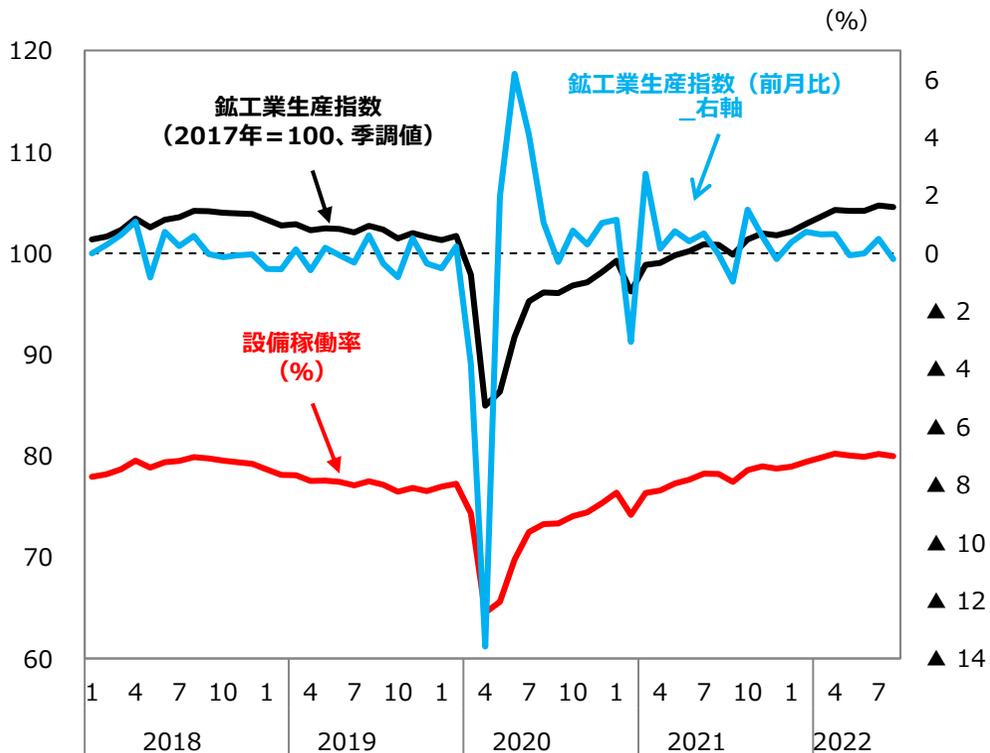
(資料) 米国供給管理協会 (ISM)  
2022年9月1日 (製造業)、6日 (非製造業) 公表

(年・月)

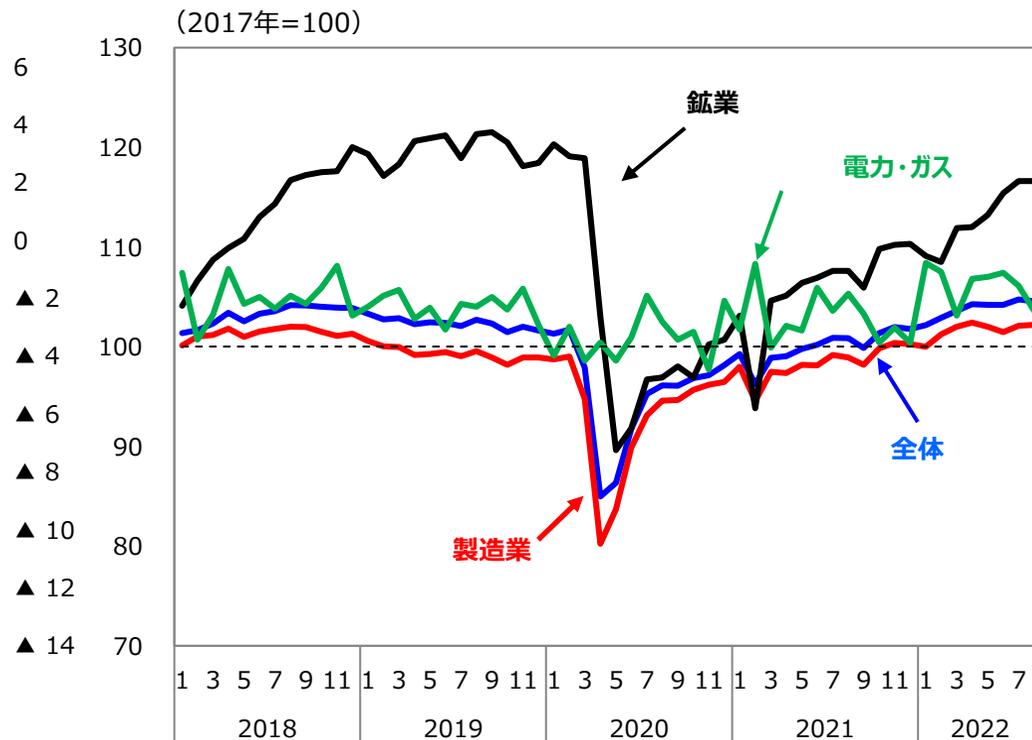
# 米国 生産

- 8月の鉱工業生産指数は前月比▲0.2%（7月：同+0.5%）と、3か月ぶりに減少した。
- 鉱業（8月前月比：+0.0%）と製造業（8月：同+0.1%）の増勢が一服したほか、電気・ガス生産（8月：同▲2.4%）が2か月連続で減少。

## 鉱工業生産指数と設備稼働率



## 鉱工業生産指数の内訳



# 米国 消費

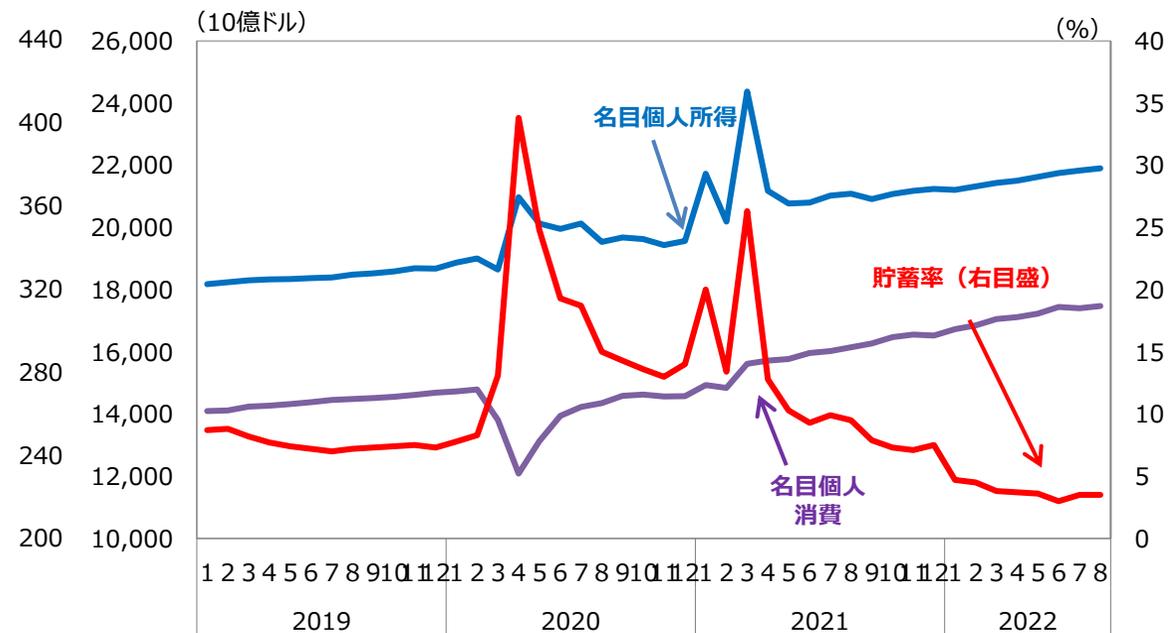
- 8月小売売上高（速報、季節調整値）は、前月比+0.3%（7月：同▲0.4%）となった（市場予想：同▲0.1%）。
- 8個人消費支出（PCE、名目）は前月比+0.4%（7月：同▲0.2%）と、市場予想（同+0.2%）を上回った。

## 小売売上高の推移



資料：米商務省「小売売上高」 2022年9月15日公表

## 個人消費支出・所得・貯蓄率



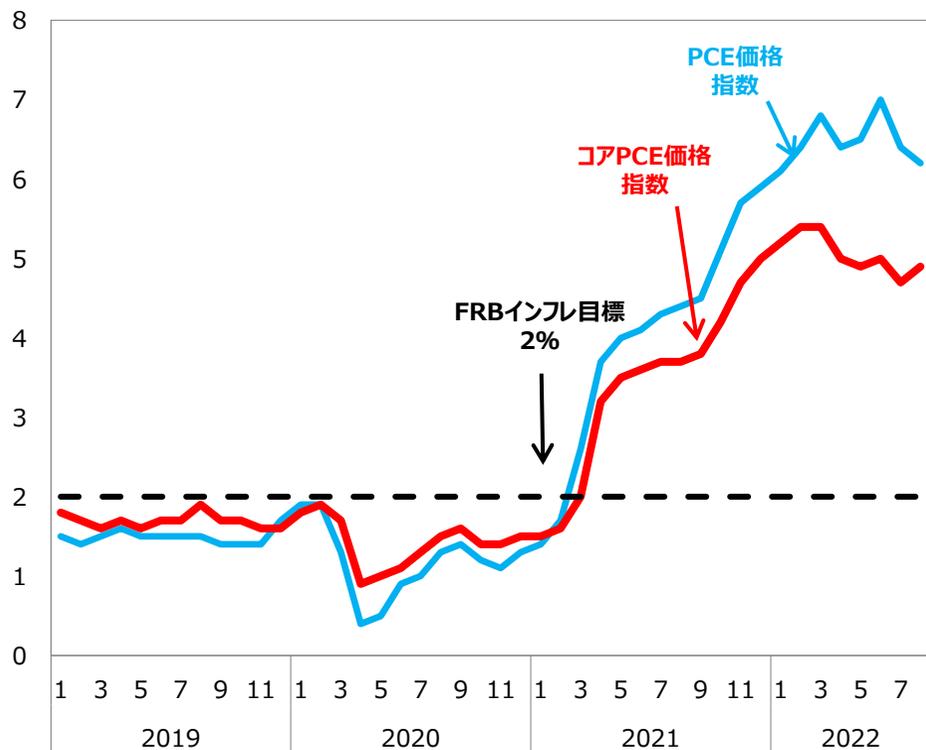
資料：米商務省「個人消費・所得」 2022年9月30日公表

# 米国 物価①

- 8月のPCE価格指数は、前年同月比+6.2%（7月:+6.4%）。
- 8月の消費者物価（CPI）は、前年同月比+8.3%（7月:8.5%）。

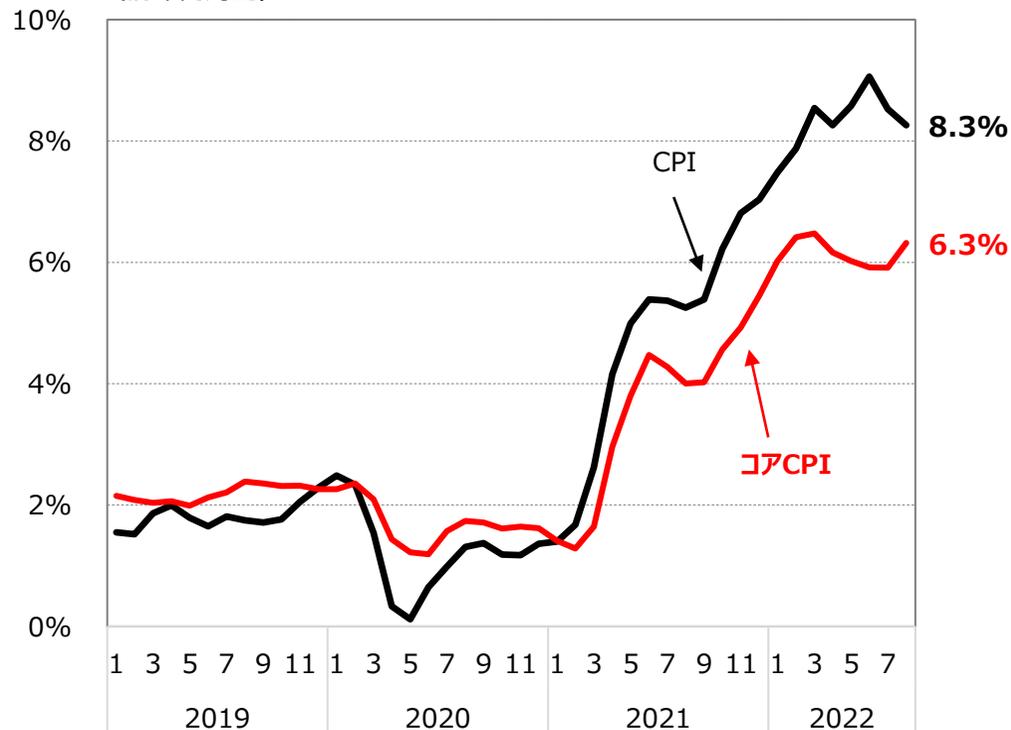
## PCE価格指数

(前年同月比、%)



## CPI（前年同月比）の要因分解

(前年同月比)



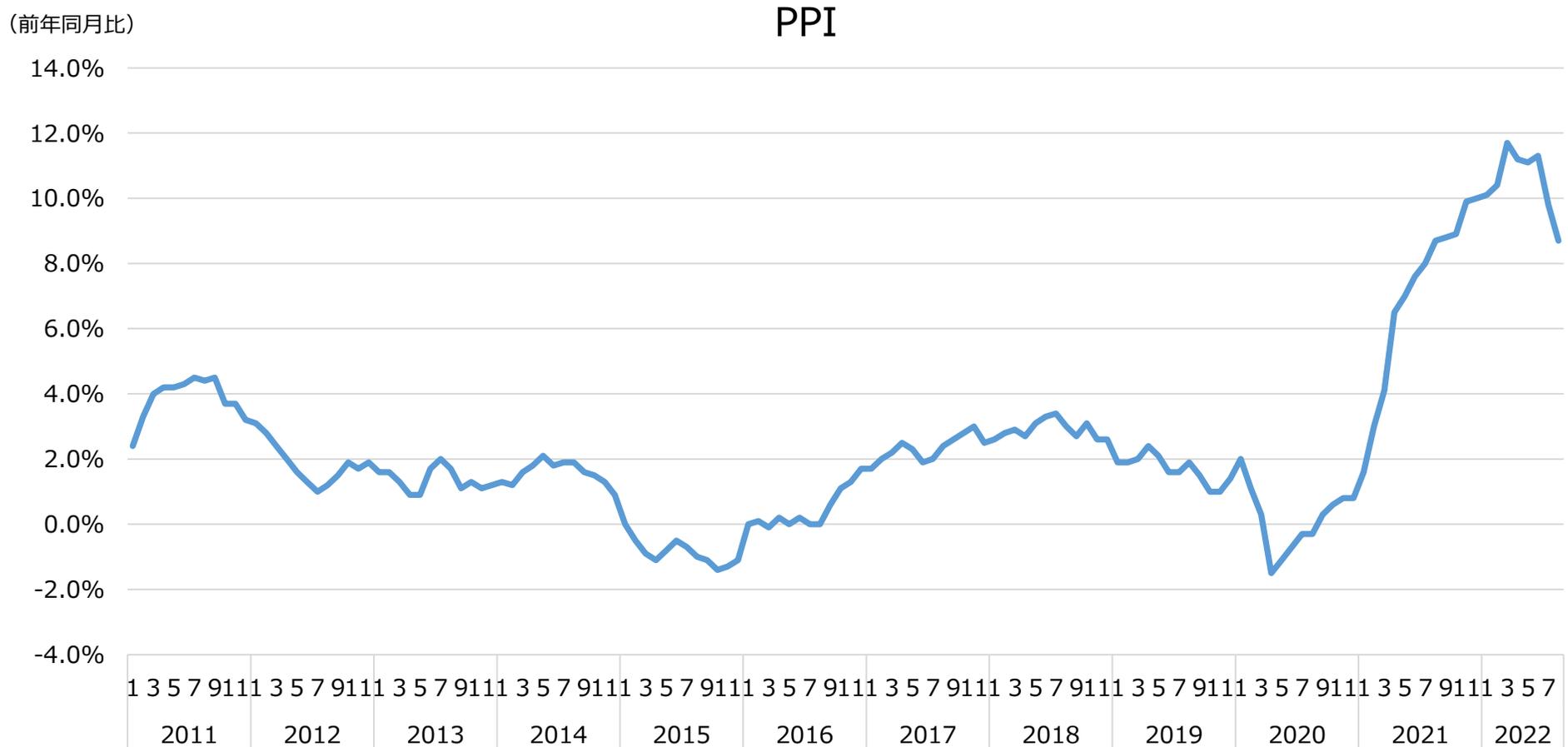
(月・年)

資料：米商務省「PCE価格指数」 2022年9月30日公表  
 ※FRBは、個人消費支出（PCE）価格指数をインフレ指標としている。

資料：米労働省「消費者物価指数（CPI）」 2022年9月13日公表

## 米国 物価②

- 2022年8月のPPI（卸売物価指数）は前年同月比+8.7%と、7月（同+9.8%）から上昇ペースは鈍化した。

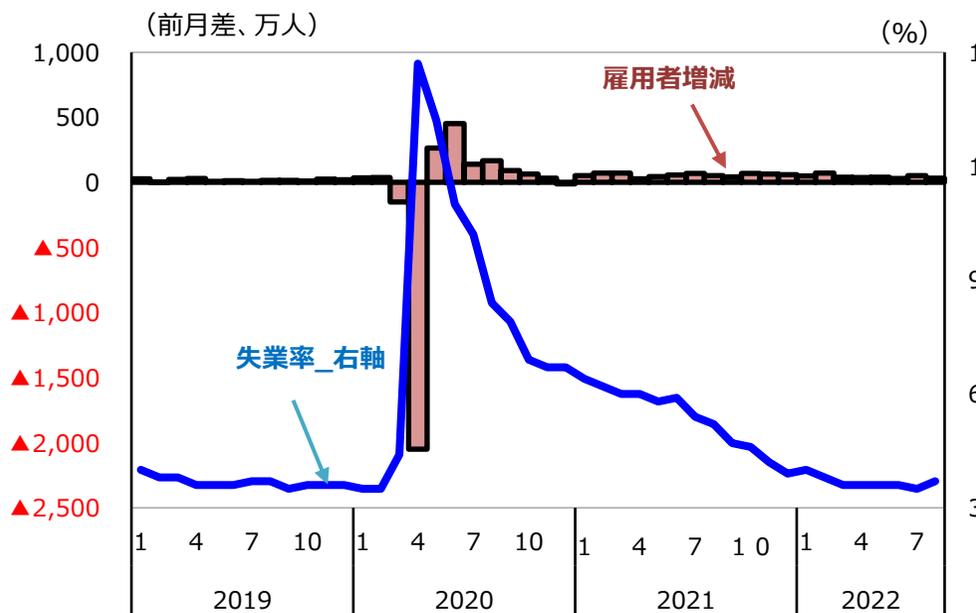


(資料) Bloomberg 2022年9月14日公表

# 米国 雇用

- 8月非農業部門雇用者数は、前月差+31.5万人と、市場予想（同+29.8万人）を上回った。
- 失業率は3.7%と、7月（3.5%）から上昇した。
- 平均時給は前年比+5.2%と、7月から横ばい。労働参加率は62.4%（7月：62.1%）となった。

## 雇用者数増減と失業率



(資料) 米労働省 2022年9月2日公表  
(注) 季節調整済

(年・月)

## 労働参加率と平均時給



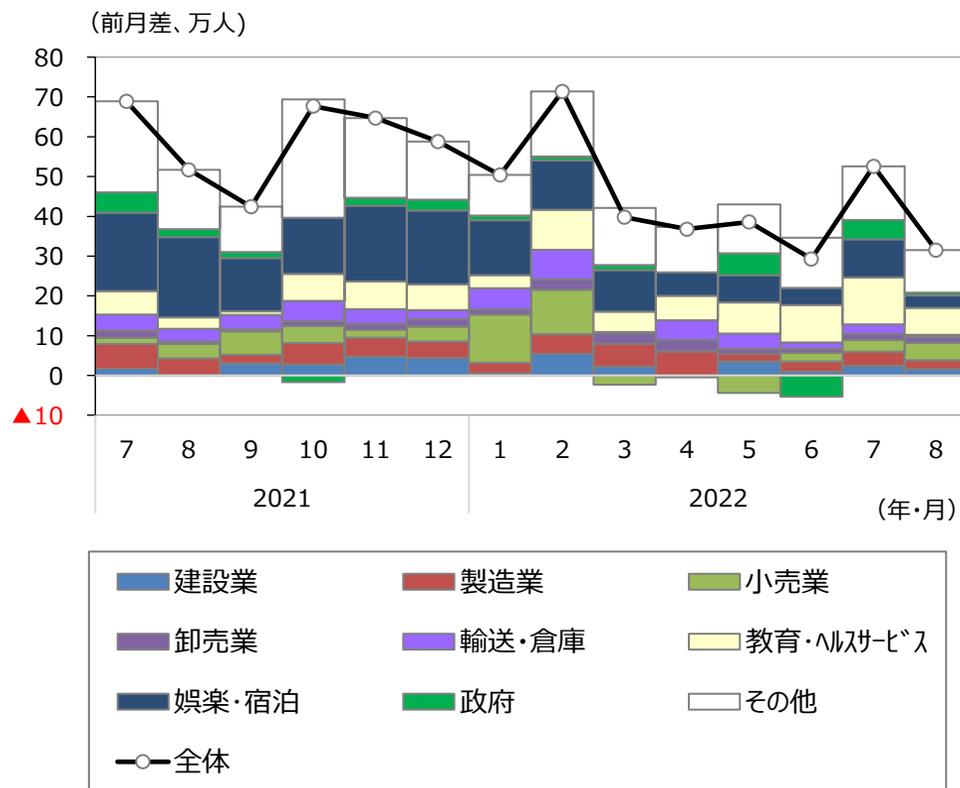
(資料) 米労働省 2022年9月2日公表  
(注) 季節調整済

(年・月)

# 米国 業種別雇用者数

- 8月は、教育・ヘルスサービス（前月差+6.8万人）、娯楽・宿泊（同+3.1万人）、輸送・倉庫（同+0.5万人）は伸びが鈍化した。

## 民間業種別雇用者数の推移



(資料) 米労働省 2022年9月2日公表  
(注) 季節調整済

(増加幅、万人)	22年6月	22年7月	22年8月	伸びの差
建設業	1.0	2.4	1.6	▲ 0.8
製造業	2.5	3.6	2.2	▲ 1.4
卸売	1.0	1.5	1.5	0.0
小売	2.2	2.9	4.4	1.5
輸送・倉庫	1.6	2.5	0.5	▲ 2.0
教育・ヘルスサービス	9.4	11.8	6.8	▲ 5.0
娯楽・宿泊	4.3	9.5	3.1	▲ 6.4
政府	▲ 5.3	4.9	0.7	▲ 4.2
その他	12.6	13.5	10.7	▲ 2.8
<b>非農業部門合計</b>	29.3	52.6	31.5	▲ 21.1

(資料) 米労働省

日本經濟

米國經濟

中國經濟

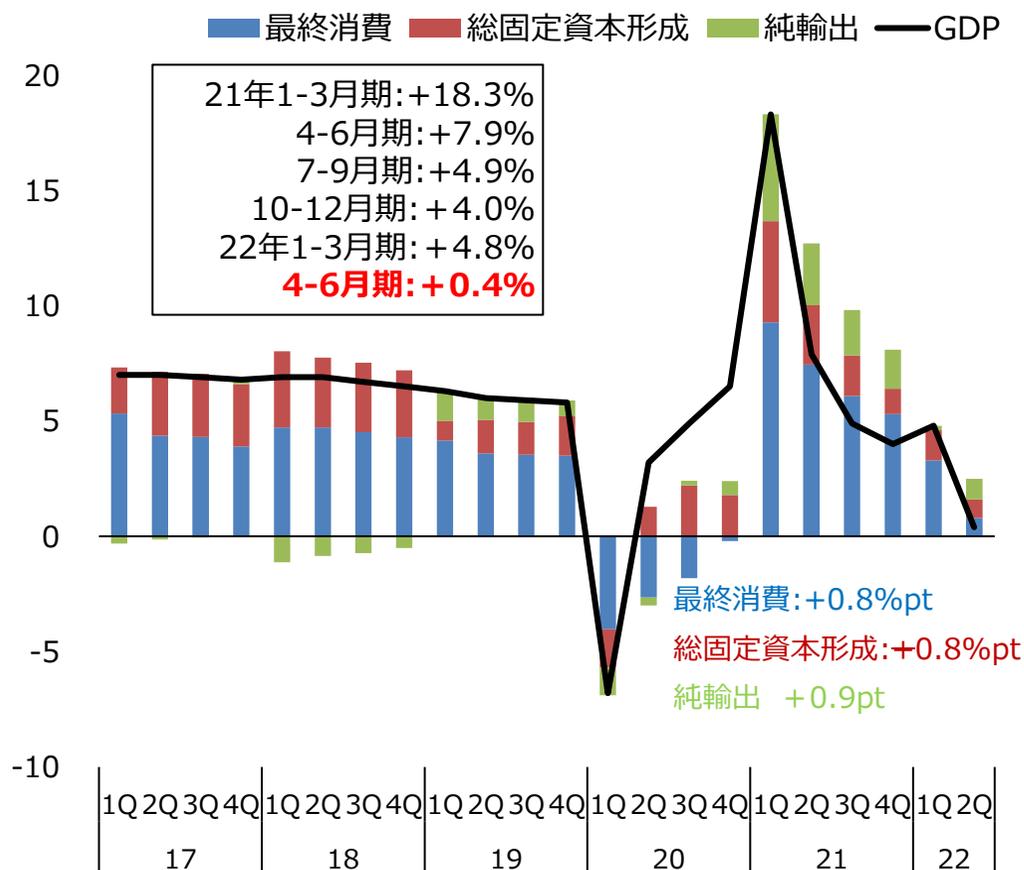
歐洲經濟

# 中国 GDP

- 22年4-6月期の実質GDP成長率は、前年同期比+0.4%と市場予想（+1.2%）を下回った。

## 四半期

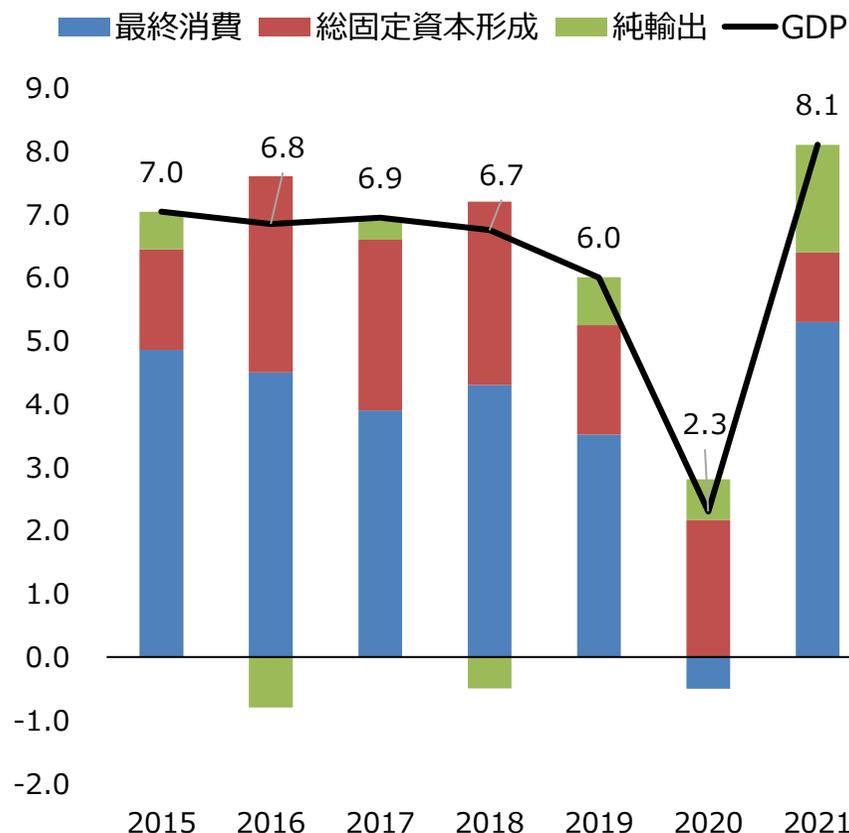
(前年同期比 %)



(資料) CEIC(中国国家統計局7月15日公表)

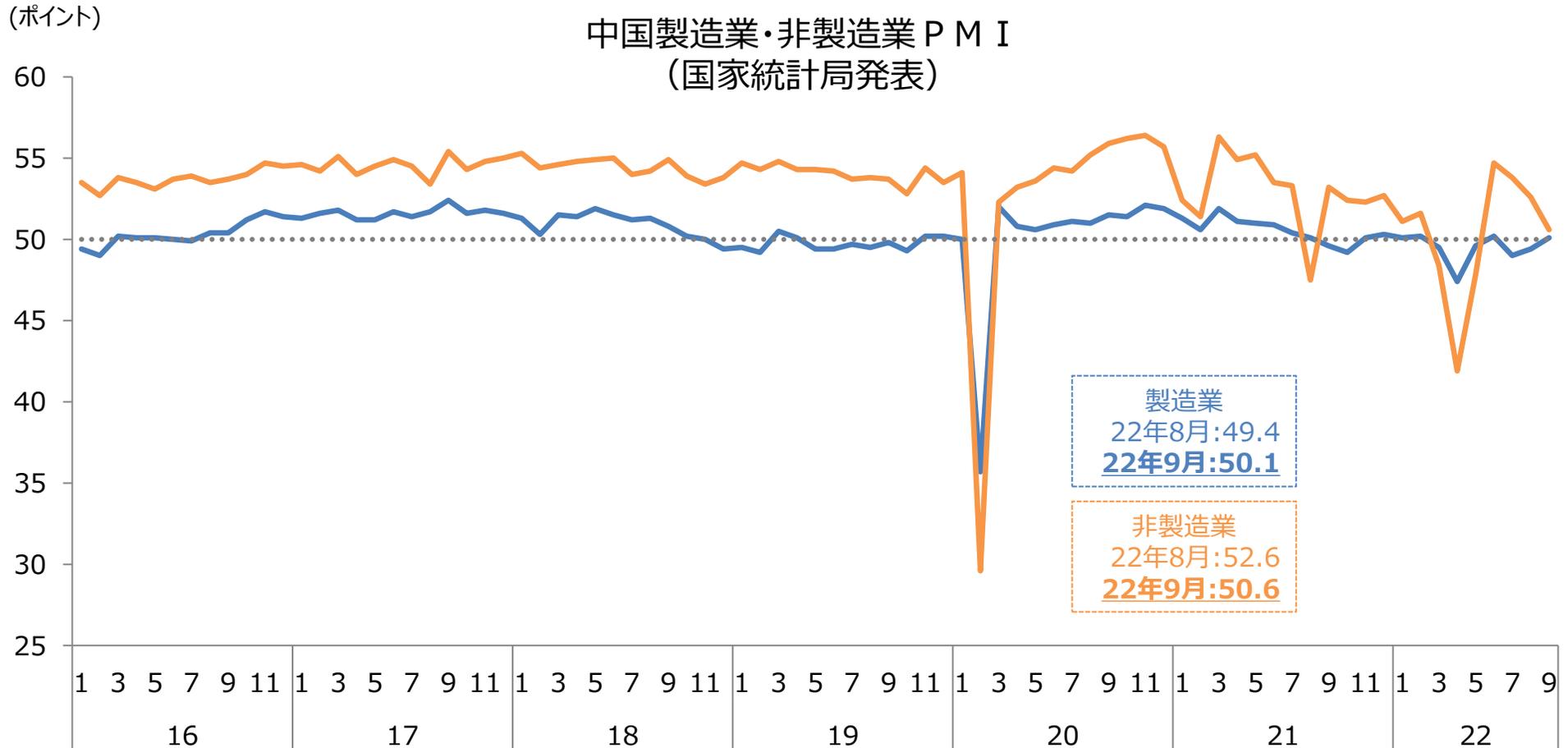
## 通年

前年比 (%)



# 中国 国家統計局PMI

- 9月の国家統計局製造業PMIは50.1と、3ヶ月ぶりに好不況の分かれ目となる水準（50）を上回った。
- 非製造業PMIは50.6と、引き続き水準を上回っているものの、先月から低下した。



・国家統計局発表PMI：国有企業や大型企業など約3,000社（製造業）、約4,000社（非製造業）が対象

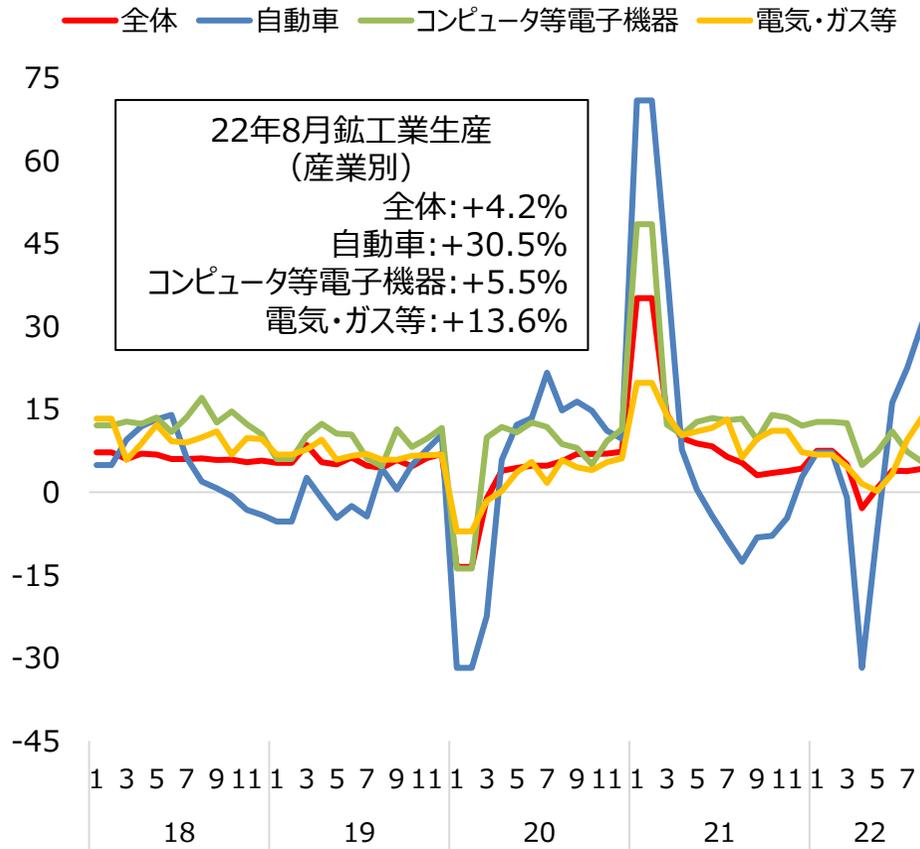
(資料) bloomberg(中国国家統計局・中国物流購入連合会9月30日公表)

# 中国 生産

- 22年8月の鉱工業生産は、前年同月比+4.2%と7月（+3.8%）から伸びが加速した。
- 21年通年では前年比+9.6%。

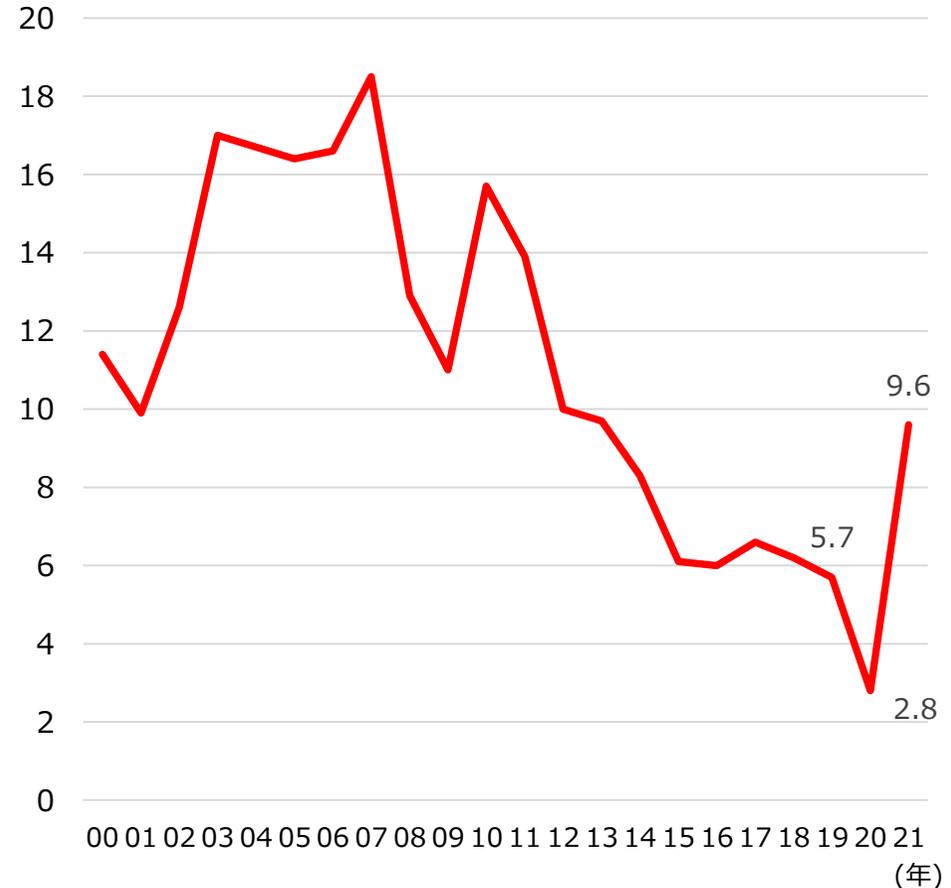
## 前年同月比

(前年同月比 %)



## 前年比

鉱工業生産全体  
前年比 (%)



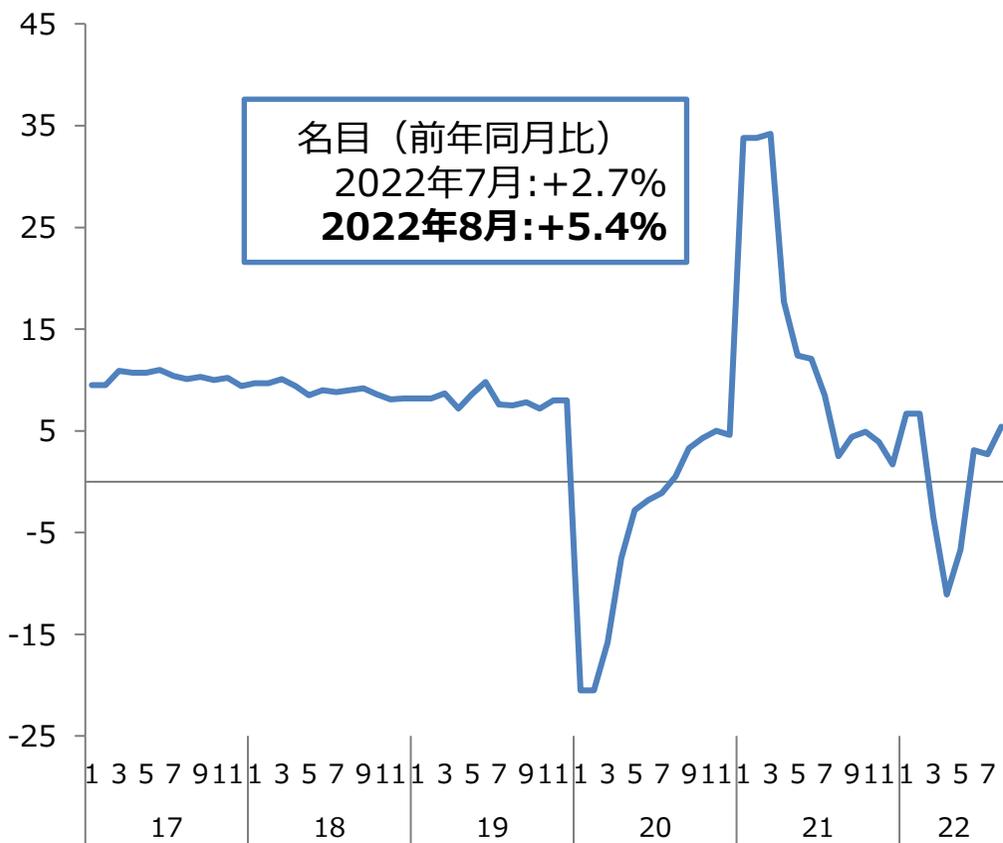
(資料) CEIC(中国国家统计局9月16日公表)

# 中国 消費

- 22年8月の名目小売売上高は、前年同月比+5.4%。7月（+2.7%）から伸びが加速した。
- 21年通年は、20年（前年比▲3.9%）の反動もあり、前年比+12.5%。

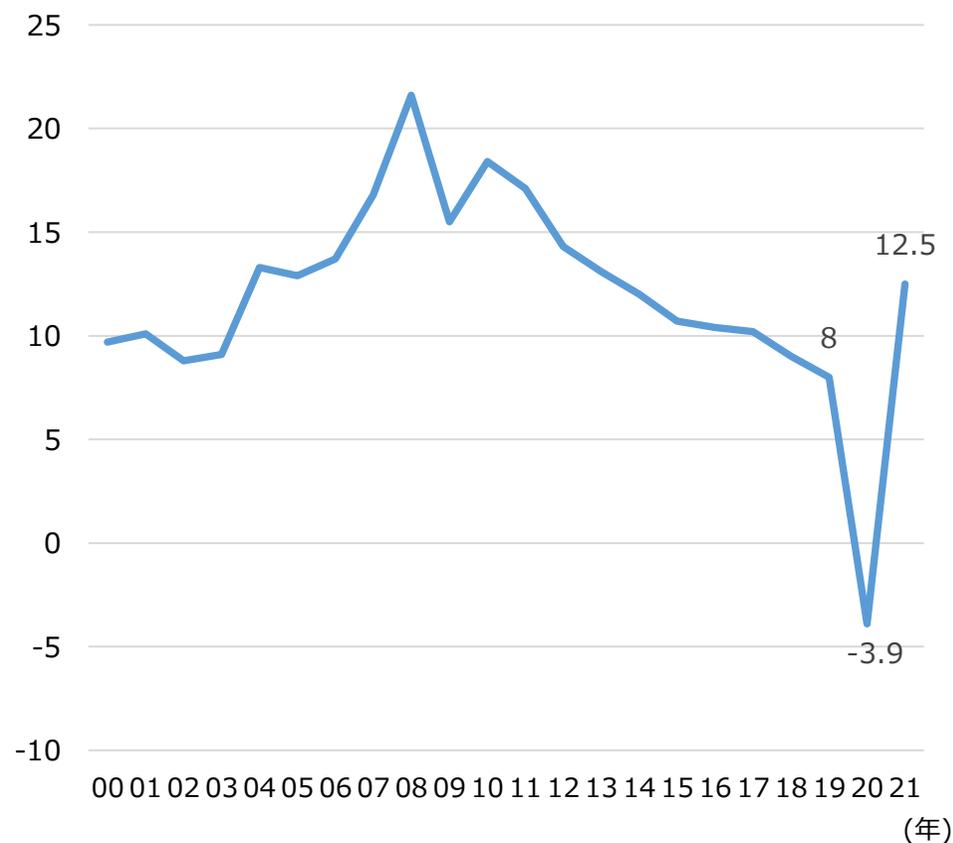
## 前年同月比

(前年同月比 %)



## 前年比

名目小売売上高  
前年比 (%)

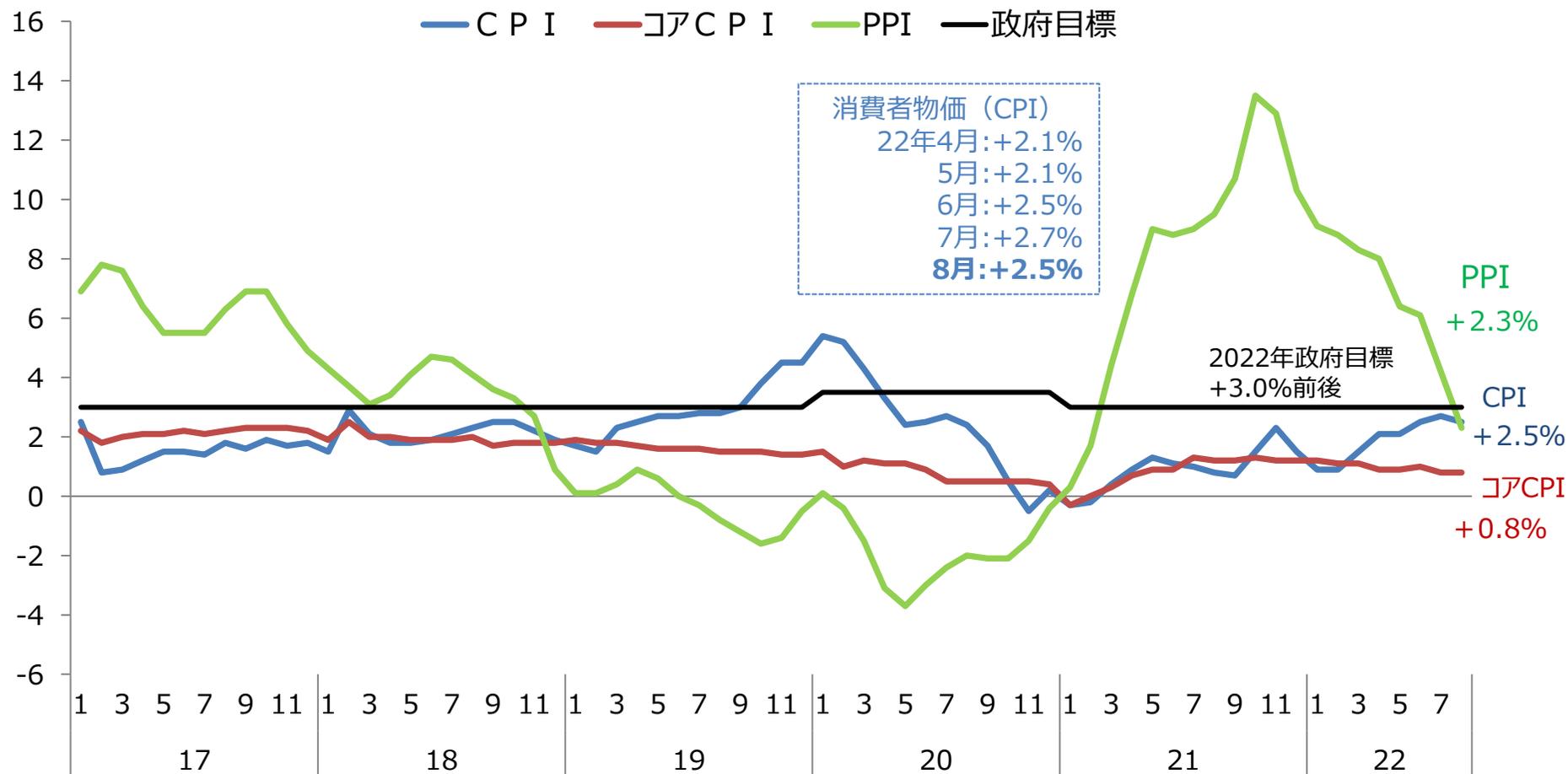


(資料) CEIC(中国国家统计局9月16日公表)

# 中国 物価

- 22年8月のCPI（消費者物価指数）は、前年同月比+2.5%（7月:+2.7%）と伸びが鈍化。
- PPI（生産者物価指数）は、前年同月比+2.3%（7月:+4.2%）と一段と伸びが鈍化。

(前年同月比、%)



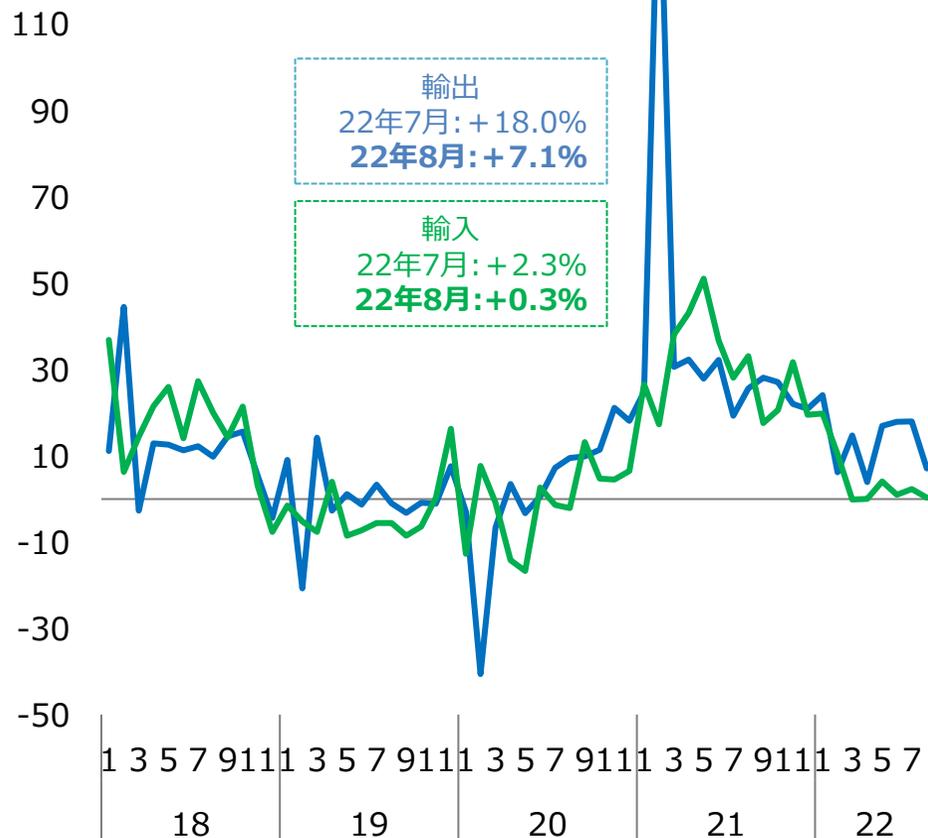
(資料) CEIC(中国国家統計局9月9日公表)

# 中国 貿易

- 22年8月の輸出額は前年同期比+7.1%、輸入額は前年同期比+0.3%と、いずれも先月から伸びが鈍化。
- 貿易収支は+794億ドルと先月から縮小。

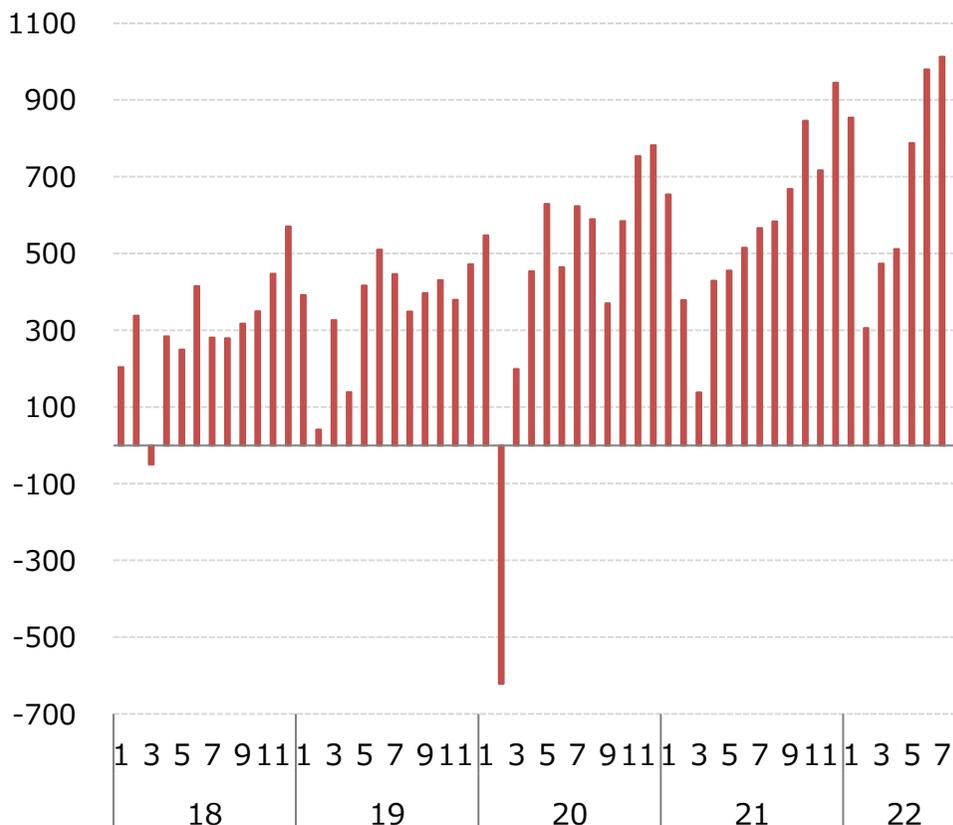
## 輸出入額

(前年同月比 %)



## 貿易収支

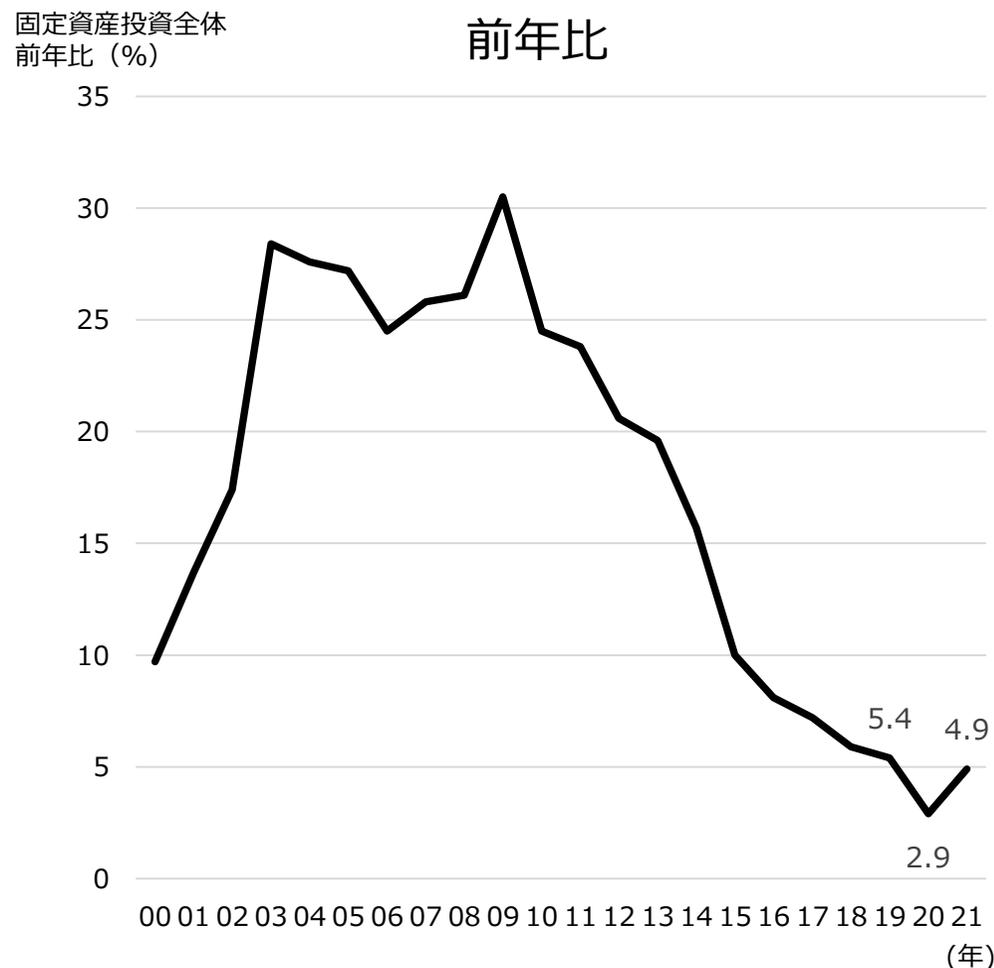
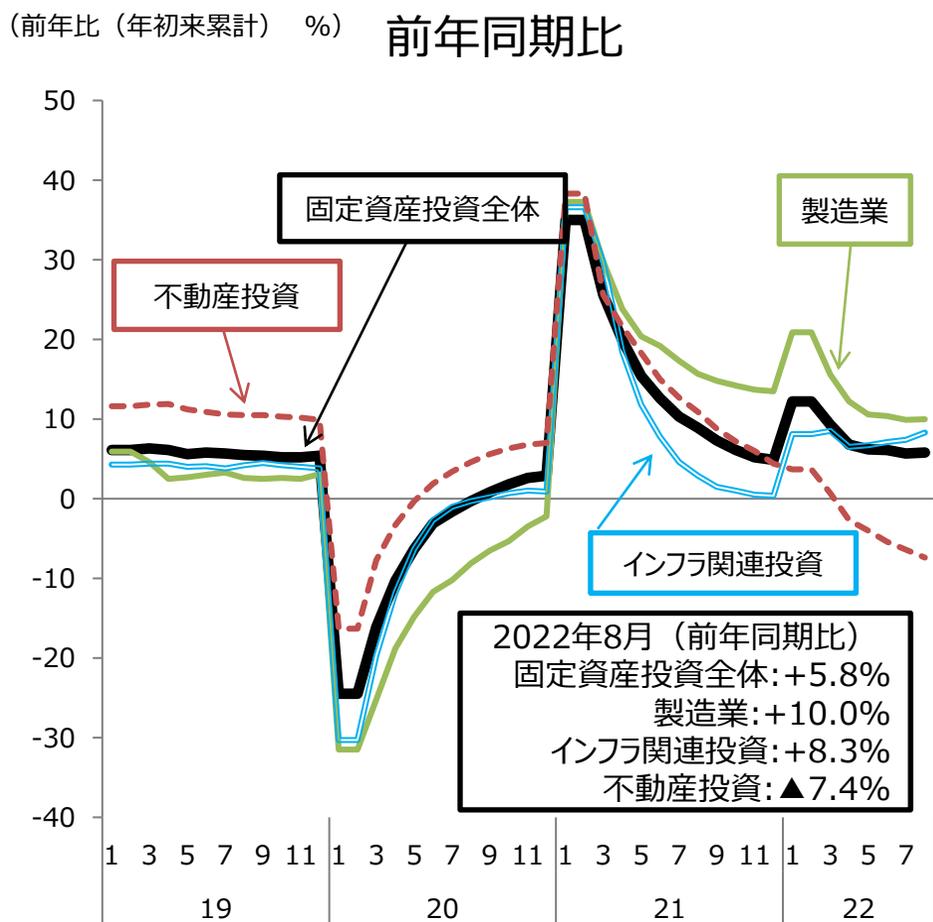
(億ドル)



※ドルベース  
(資料)「CEIC(中国税関総署9月7日公表)」

# 中国 固定資産投資

- 22年8月の固定資産投資は年初来前年比+5.8%と先月（+5.7%）から伸びが加速。
- 21年の固定資産投資は前年比+4.9%。



（資料）CEIC(中国国家統計局9月16日公表)

日本經濟

米國經濟

中國經濟

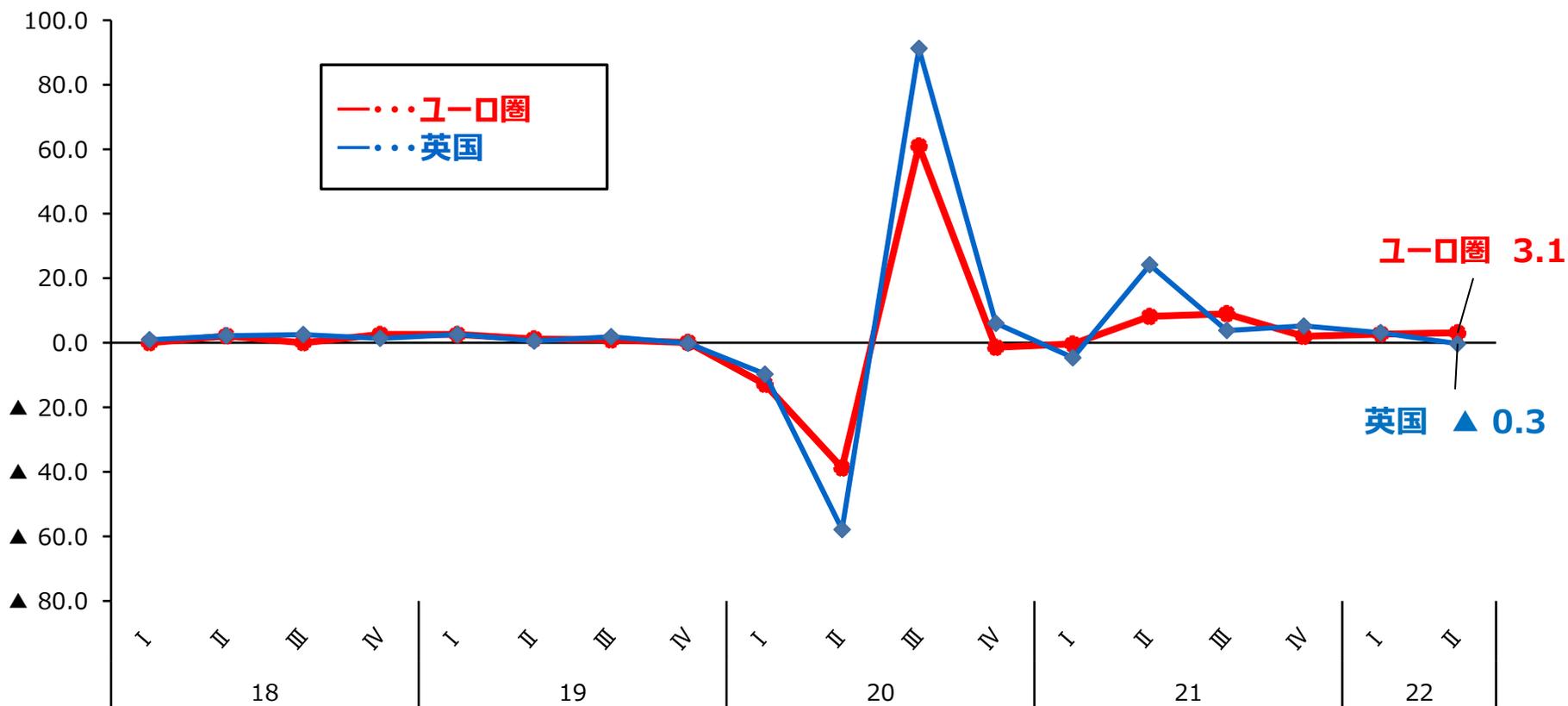
歐洲經濟

# 欧州 実質GDP成長率

- ユーロ圏の22年4-6月期は前期比年率+3.1%と前期（+2.7%）を上回り、5四半期連続のプラス成長。
- 英国の22年4-6月期は前期比年率▲0.3%（前期：+3.1%）と、21年1-3月期以来のマイナス成長。

## ユーロ圏・英国の実質GDP成長率

(前期比年率、%)

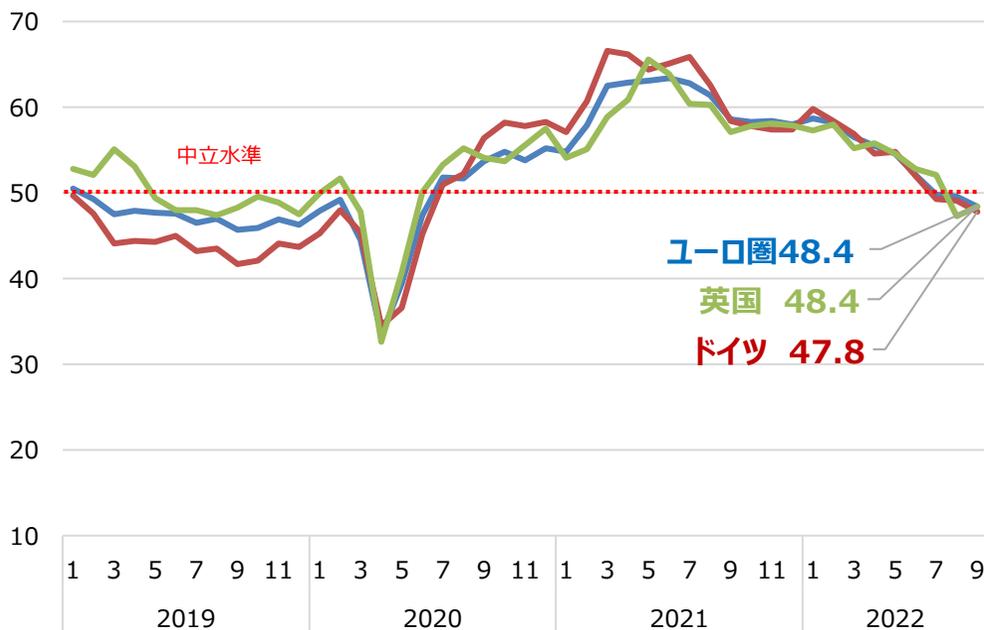


(資料) ユーロ圏：Eurostat（9月7日公表改定値）、英国：英国統計局（8月12日公表値）

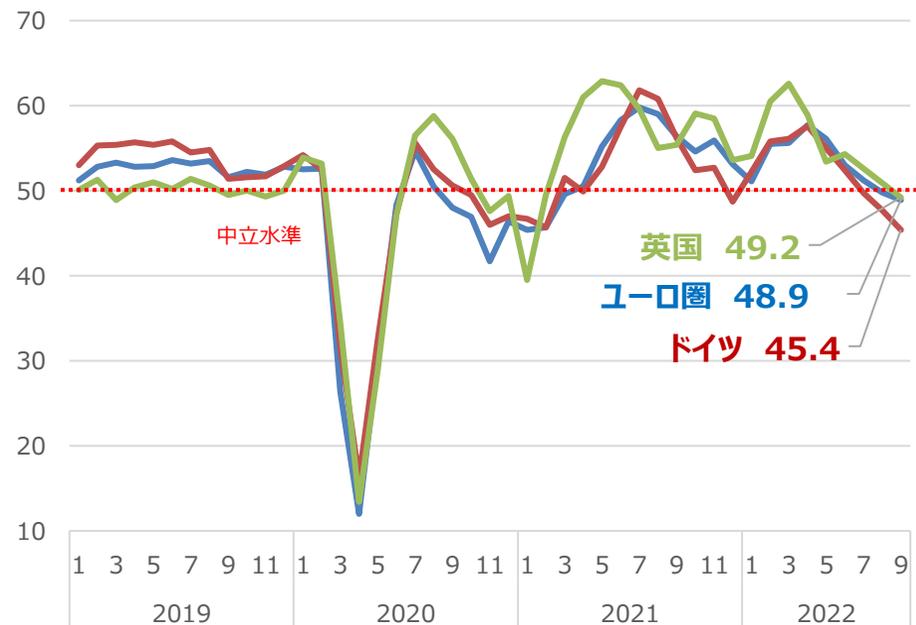
# 欧州 製造業・サービス業景況指数 (PMI)

- ユーロ圏の9月の製造業景況指数は48.4と先月（49.6）から▲1.2ポイント。  
国別では、ドイツが47.8（先月：49.1）と低下。英国は48.4（先月：47.3）へ上昇。
- ユーロ圏の9月のサービス業景況指数は48.9と先月（49.8）から▲0.9ポイント。  
国別では、ドイツが45.4（先月：47.7）と低下。英国も49.2（先月：50.9）へ低下。

## 製造業景況指数



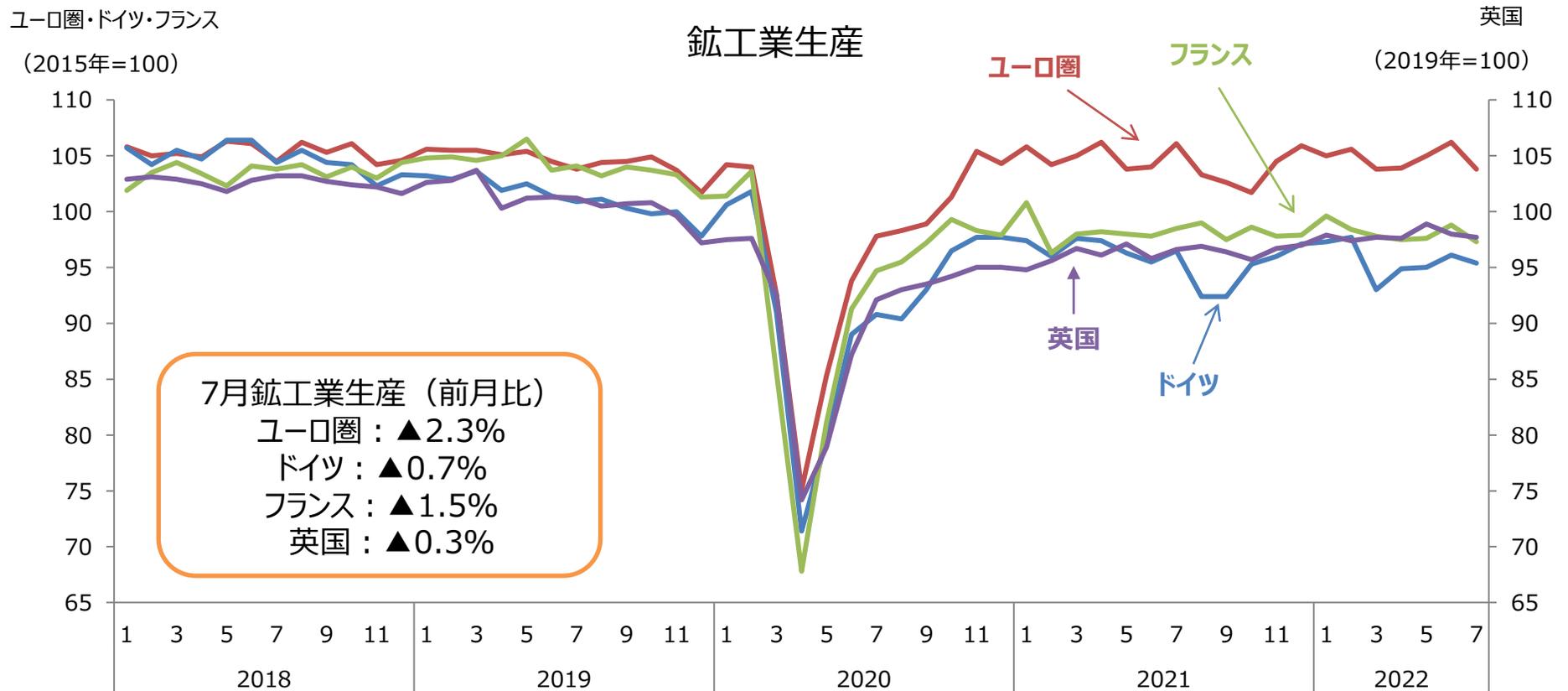
## サービス業景況指数



(注) 調査対象は、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、オランダ、オーストリア、アイルランド、ギリシャの8か国（ユーロ圏の生産の約89%）。  
(資料) マークイットPMI（9月29日,10月3日公表値）

# 欧州 生産

- ユーロ圏の7月の鉱工業生産指数は前月比▲2.3%。産業別で見ると、製造業（同▲2.1%）が減少し、鉱業（同+0.7%）、エネルギー（同+0.4%）、電気・ガス（同+0.2%）が増加。
- 国別では、ドイツ（前月比▲0.7%）、フランス（同▲1.5%）、英国（同▲0.3%）といずれも減少。



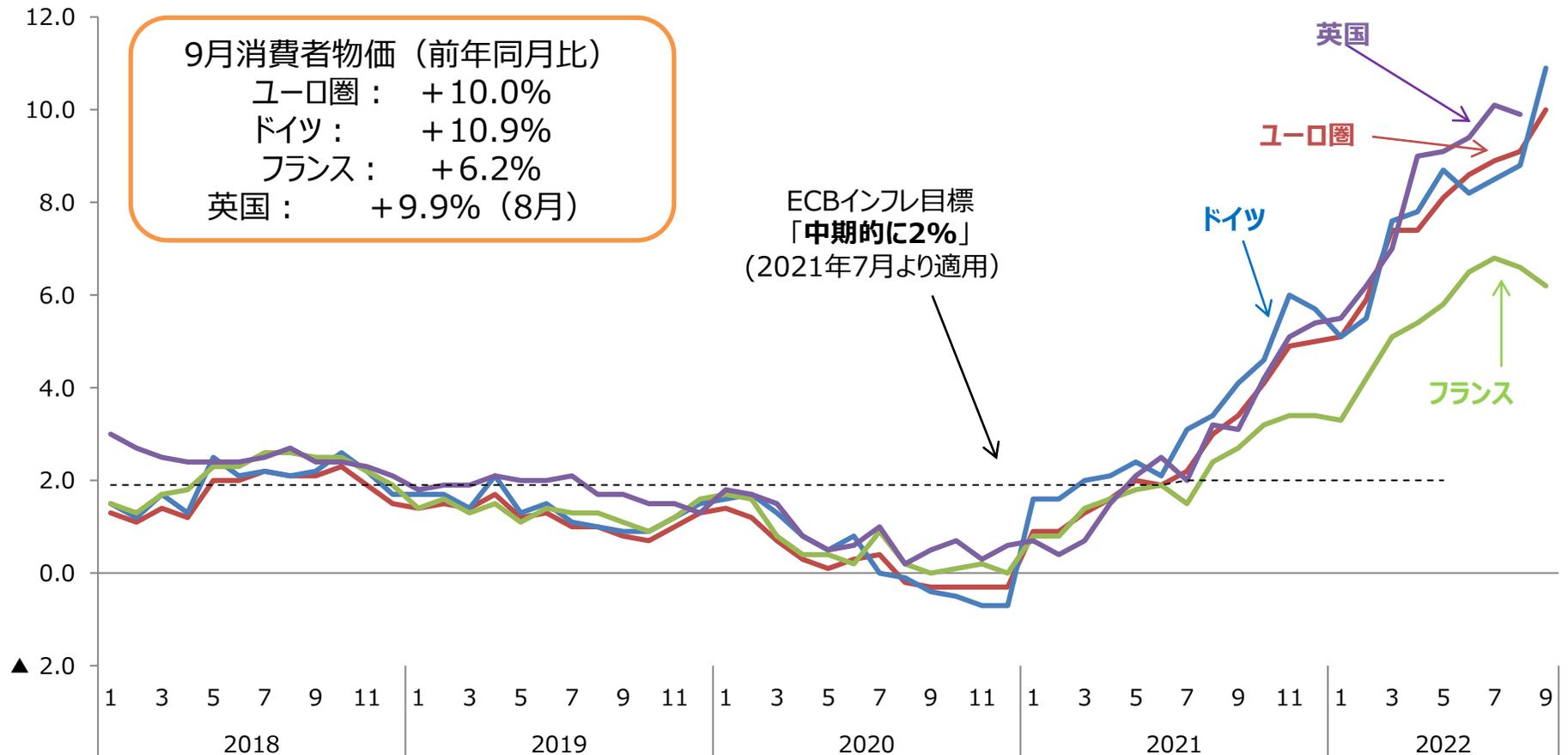
(資料) Eurostat (9月14日公表)、英国統計局 (9月12日公表)  
 ※建設業を除く、季調値。

# 欧州 物価①

- 9月のユーロ圏消費者物価（HICP）は、前年同月比+10.0%と、先月（+9.1%）から伸びが加速。
- 国別では、ドイツが+10.9%（先月：+8.8%）と伸びが加速した一方、フランスは+6.2%（先月：+6.6%）と伸びが鈍化。英国8月HICPは、前月同月比+9.9%（7月：+10.1%）と伸びが鈍化。

(前年同月比 %)

## 消費者物価



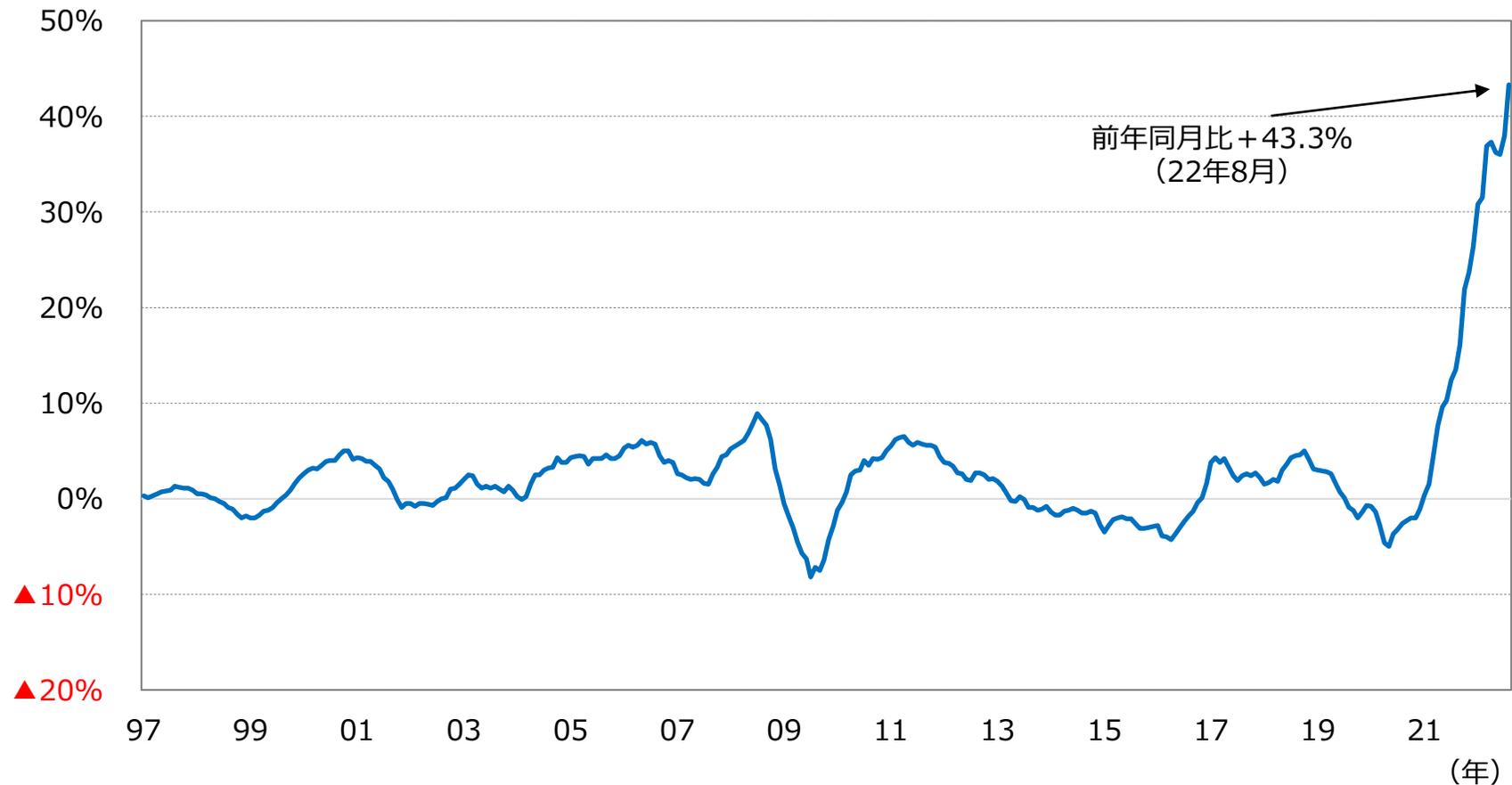
(資料) Eurostat (9月30日公表値)、英国統計局 (9月16日公表)  
※ EU基準消費者物価指数 (HICP)

## 欧州 物価②

- 8月のユーロ圏の企業物価指数は、前年同月比+43.3%（7月：+38.0%）。

(前年同月比)

### PPI (ユーロ圏)



前年同月比+43.3%  
(22年8月)

▲10%

▲20%

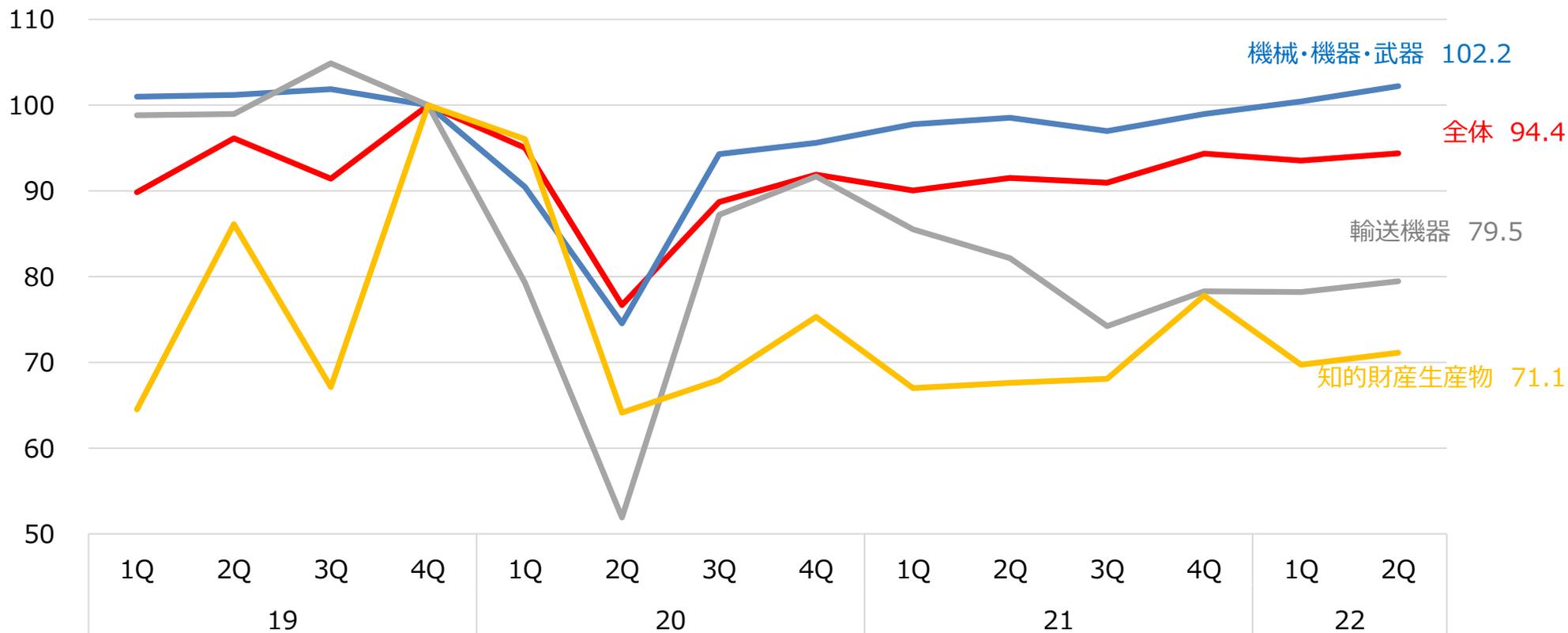
# 欧州 設備投資

- 2022年4-6月期の設備投資額を、コロナ禍前の2019年10-12月期と比較すると、全体では▲5.6%。
- 分野別では、機械・機器・武器システムが+2.2%、輸送機器が▲20.5%、知的財産生産物が▲28.9%。

## ユーロ圏設備投資

(2019Q4=100)

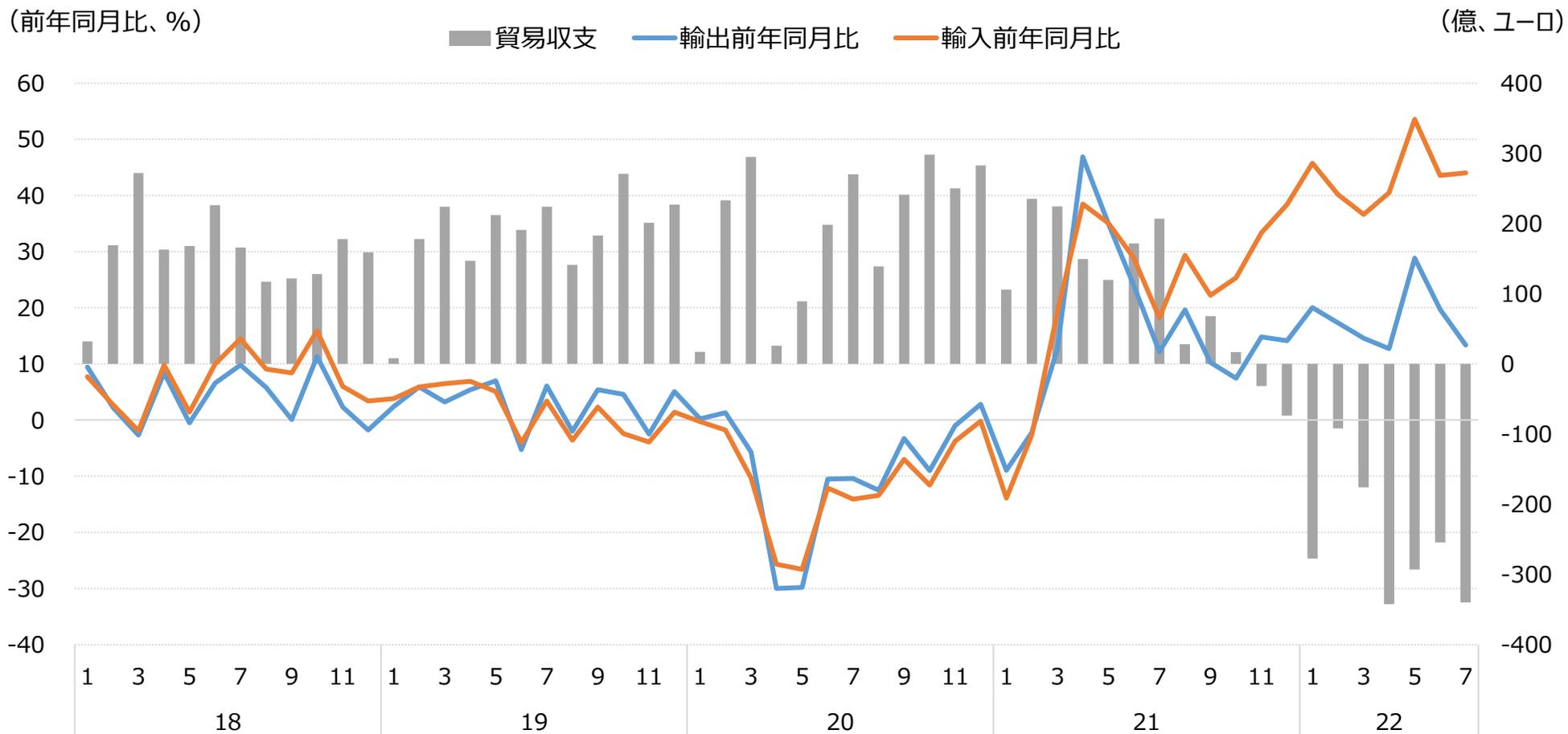
— 総固定資本形成 — 機械・機器・武器 — 輸送機器 — 知的財産生産物



(資料) Eurostat (総固定資本形成及びその内訳、季節調整済)

# 欧州 輸出入

- ユーロ圏の22年7月の輸出額は、前年同月比+13.3%、輸入額は、前年同月比+44.0%。
- 貿易収支は▲340億ユーロと、前年同月の+207億ユーロから大幅に縮小。



(資料) Eurostat (9月15日公表)

## 欧州 雇用

- 8月のユーロ圏失業率は6.6%（先月：6.6%）と、先月改定値から横ばい。
- 国別では、イタリア（7.9%→7.8%）、フランス（7.4%→7.3%）は改善。ドイツ（3.0%→3.0%）とスペイン（12.4%→12.4%）は横ばい。英国7月失業率は3.6%（6月：3.8%）と改善。

### 欧州失業率の推移

